ゲゲゲの鬼太郎の大秘密



水木伝説 著

鬼太郎のライバルねずみ男の秘密／鬼太郎のからだの秘密／鬼太郎の仲間の妖怪たちの秘密／鬼太郎誕生の秘密／鬼太郎の生活の秘密
鬼太郎の目玉親父の秘密／鬼太郎と地獄の秘密／鬼太郎の放浪の秘密／鬼太郎と水木しげるの秘密／鬼太郎の戦いの秘密

水木しげる公認

ゲゲゲの鬼太郎の大秘密

目次

鬼太郎のからだの秘密　11

鬼太郎誕生の秘密　35

鬼太郎の目玉親父の秘密　47

鬼太郎のライバルねずみ男の秘密　59

鬼太郎の仲間の妖怪たちの秘密　77

鬼太郎の生活の秘密　93

鬼太郎と地獄の秘密　149

鬼太郎と水木しげるの秘密　157

あとがき　169

鬼太郎のからだの秘密



なぜ、鬼太郎の手は切り落とされても生きているのか？

鬼太郎の体は不思議な構造になっている。まず、その手首は、取り外しも取り付けも自由自在である。たとえ切り落とされても、脳波による遠隔操作で自由に動かすことができる。鬼太郎自身は、これをリモコン手と呼んでいる。

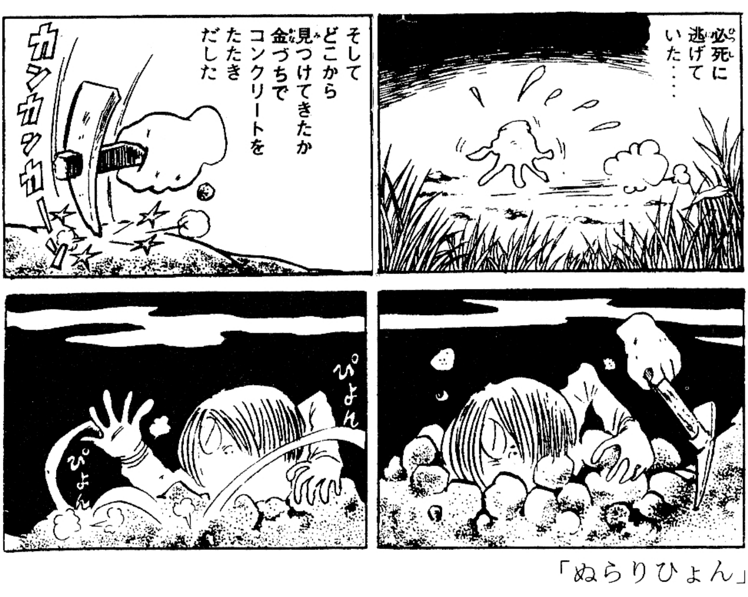
鬼太郎が、妖怪総大将ぬらりひょんと妖怪蛇骨婆の罠にはまり、コンクリート詰めにされたことがある。又、天邪鬼に釜の中に入れられ薫製にされたこともある。だが、いずれの時も、このリモコン手によって脱出に成功している。

コンクリート詰めにされた鬼太郎だが、手首を遠隔操作してどこからか金槌を見つけ、コンクリートを砕き、中から脱出したのだ。釜の中で薫製にされた時も、鬼太郎は手首を遠隔操作してテコを使って薫製の釜のふたを開け、なんとか脱出に成功している。

鬼太郎が初めて、このリモコン手を使ったのは、金田という殺し屋に右手を切り落とされて、冷蔵庫に閉じ込められた時で、この時も、冷蔵庫の中から手首を遠隔操作して脱出に成功している。

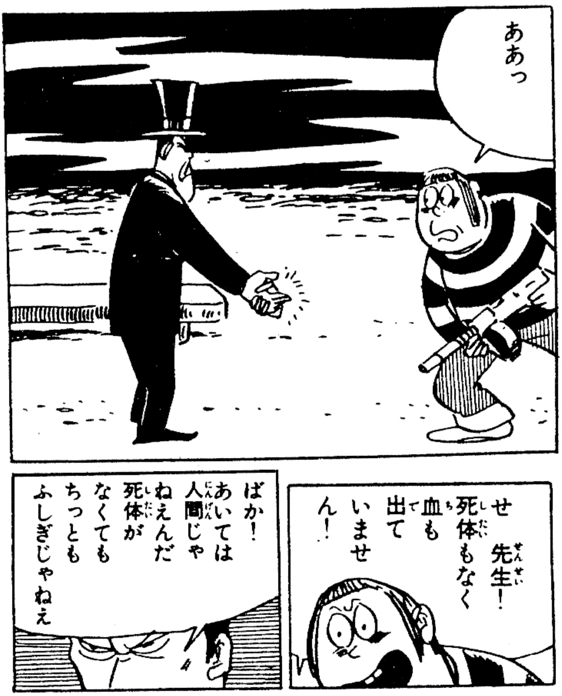
フランスから来た吸血鬼ラ・セーヌと召使の殺し屋、ザ・マンモスが、深夜に鬼太郎を神社の境内に呼びだし、いきなりマシンガンを発射したことがある。この時にも、とっさに鬼太郎はヤモリとトカゲが危機を感じるとシッポだけを残して逃げるように、手首だけを残して姿を消している。そして連中をホテルの一室に閉じ込め、外へ逃げられないように手首は外からドアのノブを固く握りしめ、部屋に火をつけて、二人を丸こげにしているのだ。鬼太郎の戦いの中でも、このリモコン手の活躍は数多い。

さて、鬼太郎はこの「リモコン手」を更に強力にした「鬼太郎つき」と呼ばれる秘技を使う時がある。この技を使うと取り外された鬼太郎の手首は伸縮し、毛穴から相手の手の中に侵入できる。それによって相手



「ぬらりひょん」

の手を自由自在にコントロールできるのだ。鬼太郎にこの技を使われた妖怪総大将ぬらりひょんは、パチンコ屋で突然、自分で自分の首を締めたり、客のひとりを殴ったり、さんざんな目にあったことがある。

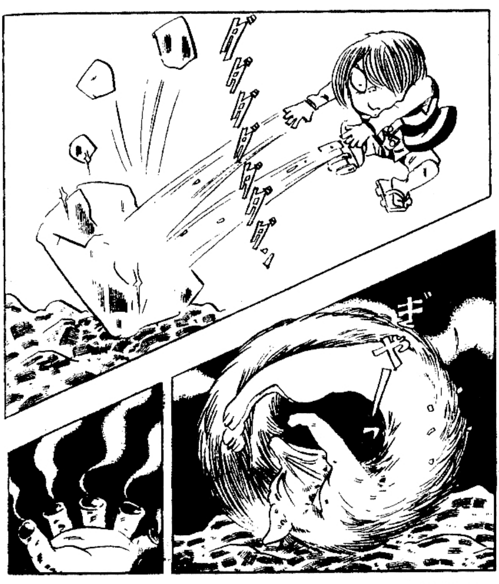


「手」

悪魔ベリアルを倒した指の秘密とは何か?

鬼太郎は、明治元年にポルトガルから渡ってきた悪魔ベリアルと戦ったことがある。ベリアルは、からす天狗を地下に封じ込め、その魔力を使って身体を分解し、無数の手足や口や目や耳のある巨大なかたまりに変身して鬼太郎を攻撃してきた。その中で、本当の手足や口や目はひとつしかない。鬼太郎は、瞬時にしてそれを見抜き、猛烈な勢いで十本の指を弾丸のように発射し、見事そいつに命中させ、ベリアルの息の根を止めることに成功したのだ。

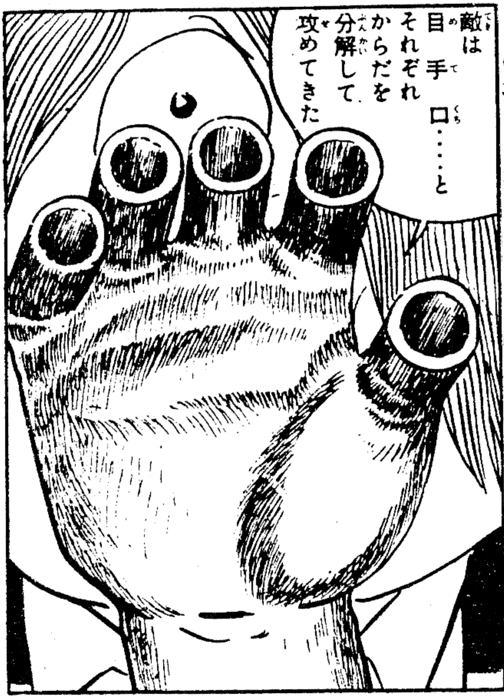
つまり、鬼太郎は、指を小型ミサイルのように発射することができるのだ。「指鉄砲」と呼ぶ彼の切り札ともいうべき武器である。なぜ、切り札なのかというと、両手の指の数だけ、つまり一回につき十発しか使うことはできないからだ。発射した指は又生



「天狐」

えてくるが、少し時間がかかるらしい。

妖怪雨ふり天狗と戦った時も、鬼太郎は雨ふり天狗がうちわを振るうよりも一瞬速く、指鉄砲を発射させ、相手の機先を制している。もし、鬼太郎が指鉄砲を発射させるのが一瞬遅かったら、雨ふり天狗が振るうちわの凄まじい竜巻に巻き込まれていたことだろう。この他にも、九尾のきつねと対決した時などにも、この技を発揮している。



「悪魔ベリアル」

鬼太郎が髪の毛で妖怪牛鬼を退治したって本当か？

鬼太郎の髪の毛は、危険を感じとると一本の毛がピピッと逆立つ。これは毛がアンテナやレーザーの役目をしているのだ。鬼太郎が危機という時に敵の妖怪よりも一瞬早く「指鉄砲」を発射したりできるのも、この髪の毛自体が妖気を感知するものと思われる。

初期の頃、鬼太郎は、妖気を鼻で嗅ぎ取っていたが、たましいを食べる中国の妖怪「夜叉」との対決あたりから、髪の毛を一本「ピピッ」と逆立てて、妖気を計るようになった。「妖気計算髪」ともいわれている。

鬼太郎の髪の毛のもうひとつの不思議な特長は、「リモコン手」と同様に、取り外しが可能で、遠隔操作で自由に操ることができることである。いうならば「リモコン髪」とでも呼ぼうか。



妖怪アンテナ

三種の神器のひとつ、八たの鏡の中に住み、人の髪の毛を奪う妖怪「髪さま」が、村人全員の髪の毛を奪ってしまう事件があった。この戦いの時に鬼太郎は、自分の髪の毛を外へ放ち、遠隔操作で「髪さま」の弱点を探らせたのだ。髪の毛が鬼太郎の頭に戻ると、その髪の毛の記憶していたことが鬼太郎の頭の中に映し出される仕組みになっている。

又、鬼太郎の髪は伸縮自在である。「髪の毛綱」「髪の毛縄」「髪の毛針」という技も秘めている。「髪の毛綱」は、髪の毛を伸ばし、相手をグルグル巻きにして動けなくするし、「髪の毛縄」は、髪の毛を投げ縄のように変化させ、相手を捕まえたり、時には首を締めて殺したりする恐ろしい技だ。鬼太郎が妖怪牛鬼を退治したのもこの秘技だ。



「妖怪大戦争」

「髪の毛針」は、一種の念力で髪の毛を針のようにして発射させる技で、鬼太郎は西洋妖怪王ベア

ードとの戦いで初めてこの技を披露したが、あまりにも念力を使いすぎて倒れてしまった。敵を威嚇したり、ダメージを与えたりする技で、鬼太郎の得意技のひとつである。



「妖怪獣」

鬼太郎のやぶにらみ催眠術ってなんだ？

鬼太郎の右眼は一瞬にして相手を催眠術にかけることができる。相手と眼と眼が合っただけで充分だ。やぶにらみになった右目から強力な念波が発射される。

空飛ぶ妖怪ふらりびに乗った妖怪毛羽毛現と対決した時に、鬼太郎はこの術を使ったことがある。毛羽毛現に後ろから抱きつき、驚いた毛羽毛現が振り向き、眼と眼があった瞬間、この催眠術を使い、相手を墜落させ勝利を納めたのだ。



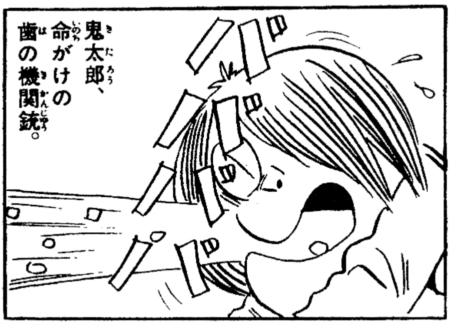
「毛羽毛現」

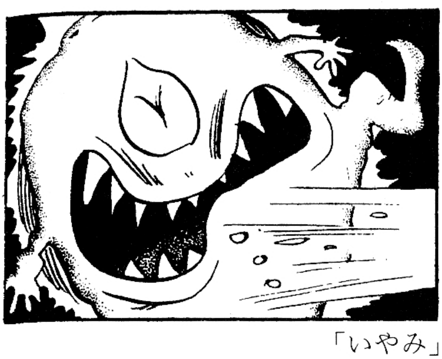
妖怪いやみのキンタマに命中した鬼太郎の歯の秘密とは何か？

鬼太郎の口にも恐ろしい秘密がある。まず、その歯は「歯の機関銃」と呼ばれ、その名のごとく、歯を機関銃のように発射して、敵を攻撃する。

鬼太郎は妖怪いやみとの戦いで、この「歯の機関銃」を発射させている。妖怪いやみは女の着物を着ているが実は男の妖怪で、欲が深く、人の楽しみを食べて生きているが、その妖術のエネルギー源は、巨大なキンタマで、鬼太郎はそのキンタマ目がけて歯の機関銃を命中させて倒したのだ。

又、鬼太郎の舌は「カメレオン舌」と呼ばれている。カメレオンが危険を察知すると、





「いやみ」

保護色を使って身を守るように、『鬼太郎は危険を感じると、恐怖心が脳に作用して周りの物体と同じ色になる』。この舌は例えば、「リモコン下駄」や「霊毛ちゃんちゃんこ」のように先祖から伝わった大切なものを奪われそうになった時などは、この舌が自在に伸びて、相手を締め上げる。「リモコン下駄」を妖怪まくら返しに奪われかけた時、鬼太郎はとっさにこの技を使った。本人の意志にかかわらずとっさに出てくる秘中の秘技といえる。

更に、鬼太郎は体内の毒素を排泄しないで貯蔵している。その毒をまんじゅうのように小さくして、何も知らない妖怪おりたたみ入道に食べさせ殺したことがある。これを「毒まんじゅう」という。ただし、一年に一度しか、この毒まんじゅうは作れない。なぜって？　体内の毒素は、一年間の貯蔵期間が必要なのだ。

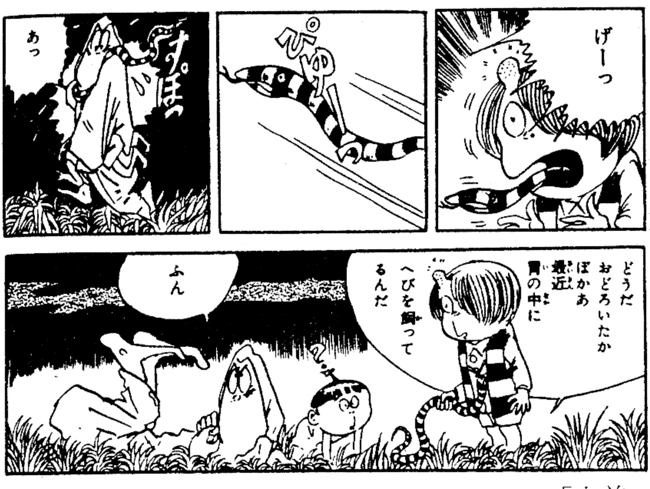

「まくら返し」

鬼太郎は胃の中に蛇を飼っているって本当か？

鬼太郎の胃は驚くべき機能を持っている。人間のようにただ物を食べて肛門から排泄するだけの消化器官ではない。どんなものでも消化し、溶かす胃液を持っているのだ。

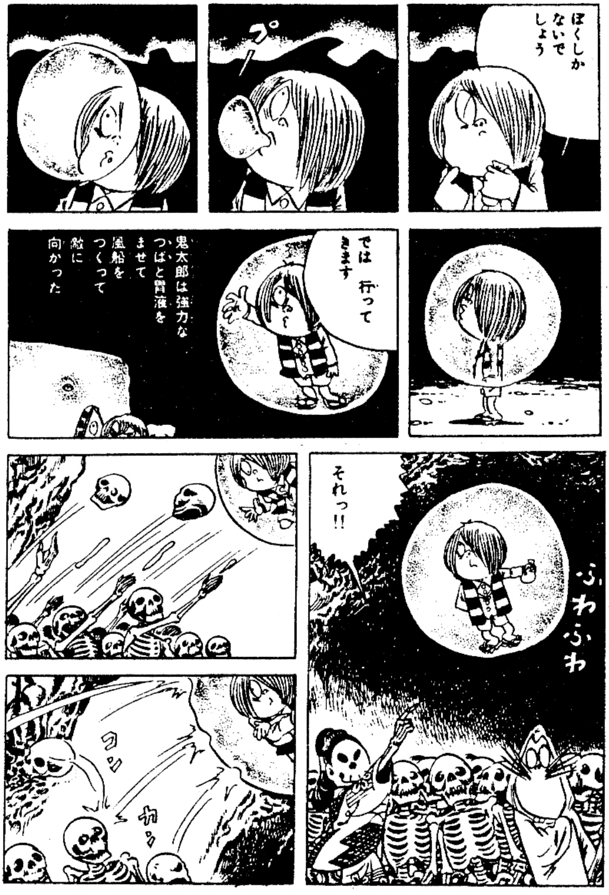
八百八狸が、日本を征服するために送り込んだ妖怪獣蛟龍と対決した時のことだ。その巨体に踏みつぶされた鬼太郎は、自らの胃を破り、胃液を体外へ流し、その胃液で蛟龍を溶かしたことがある。だが、この戦いで、自分も溶けてしまったので、以後滅多な事では使わない秘技のひとつだ。

更に、胃液と唾液を混ぜ合わせ風船を作ることが出来る。これは「鬼太郎風船」と呼ばれ、敵から身を守るバリアーのようなもので、その中に入って戦うことも出来る。霊を



「大首」

食べて縄文時代から生き続けていた妖怪大首との戦いで、この風船を使用したことがある。又、鬼太郎は胃の中に、その強力な胃液にも耐える「鬼太郎蛇」という蛇も飼育している。

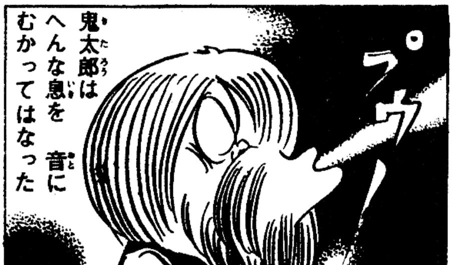


「妖怪城」

鬼太郎の鼻毛の秘密とは何か？

さて、鬼太郎は鼻毛をミサイルのように発射することができる。ゲゲゲの森の住人でもある「妖精の花子」が貯金箱を盗まれたことがある。鬼太郎は、「鼻毛ミサイル」を使って、犯人の貯金箱妖怪丸毛を捕まえた。しかし、あまりに下品な技のために花子には不評を買ったので、それ以後女の子の前では使わないことにしている。

この鼻毛ミサイル以外にも鬼太郎はたまに汚い技を使うことがある。人呼んでこれを「鬼太郎悪臭」という。韓国の人々を次々と老化させる朝鮮魔法の正体を暴くために、鬼太郎は、口から腐った肉の臭いのする悪臭を放った。すると銀蝿の集団が群をなして飛んできて、妖怪ぬっぺらぼうが正体を現したのだ。





「朝鮮魔法」


そんなこと
わかってらい！
フガフガフガ
きゃーっ
命中したようだ
あの方向だ
もう
つかまえたよ――っ
いたいよー
まあ　なんて
下品な
ミサイルでしょう

「げた合戦」

鬼太郎が蚤を三匹飼っているって？
鬼太郎のからだには他にこんな秘密がある

鬼太郎は他にもこんな不思議なからだの秘密を持っている。それは時として戦いの中で技として発揮される。

蚤攻撃―鬼太郎は、身体の中に蚤を三匹飼っている。その蚤と話もできる。妖怪猫仙人にあやつられた猫の集団に襲われた時、この三匹の蚤が仲間の大群を集めて駆け付け、猫たちが身体をボリボリ掻いている隙に、脱出に成功した。



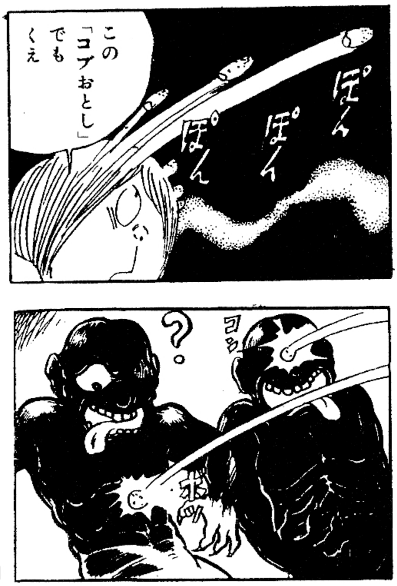
「猫仙人」

コブ落とし―たんぼに棲む、口から泥をはく妖怪泥田坊の分身たちに袋叩きにあった時に、鬼太

郎は頭に出来たコブをミサイルのようにしてうち返した。

空気ポンプ術―子供を海の中に引きずり込む海蛇妖怪磯女と戦った時に鬼太郎は、相手に呑み込まれてしまう。しかし、体内の鬼太郎は、空気を大量に吸い込み、身体をボールのように丸く膨張させ、磯女を身体ごと破裂させてしまったのだ。

変形術―鬼太郎の身体はまるでゴムのように自在に変形する。妖怪猫仙人に襲われ、羽交い絞めにされた時、身体を卵みたいに丸く変形させて脱出し、更にロープ状に細く変形して化け猫を縛り上げた。



「泥田坊」

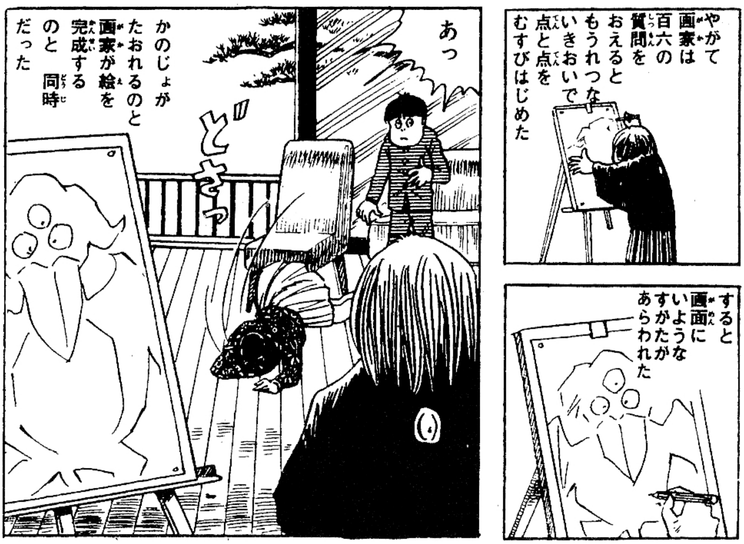


「猫仙人」

魂金縛りの術—妖怪のたましいを封じ込める術である。鬼太郎が妖怪に取り憑かれた人間に七四の質問をして、その答えを石や紙の上に点で印していく。そして、七四の質問が終わると猛烈な勢いで点と点を結んでいく。すると、書いたものに妖怪の顔が現れ、たましいを封じ込める、という高等な術だ。

鬼太郎は、天才画家に変装し、女性の身体に入っていた陰摩羅鬼という妖怪のたましいを封じ込めたことがある。

体内電気—鬼太郎の身体には決して触らないほうがいい。なぜなら彼の身体は電気ウナギのように体内電池を持っているからだ。相手に捕まると放電して、一



「陰摩羅鬼」

時的に相手を気絶させるほどのショックがある。鬼太郎は、この手で、人間を「吸血木」という赤い木にして地上を征服しようとした妖怪のひあがりを倒したのだ。

妖怪原子炉—鬼太郎は体内にエネルギーを貯め、口から放熱を発すると、身体が氷漬けにされても、一瞬にしてそれを溶かしてしまう。冷凍妖怪雪男、雪女、雪ん子に冷凍にされた鬼太郎は、この手で氷ついた身体を溶かし、反撃に出たのだ。

脳操縦—敵の身体に呑み込まれた時に、その脳に侵入して相手をロボットのように操縦してしまう。妖怪なまずに食べられた鬼太郎は、液体となり（液体となったのは妖怪獣に踏みつぶされて）なまずの体内に入り、脳をコントロールし、相手を北極まで連れていき、生きながら氷づけにしてしまったのだ。

妖怪めがね—見た目は普通のサングラスだが、鬼太郎が使用



「峠の妖怪」

すると、見えない敵も見えてしまう。妖怪ぶるぶるを見つけ出すことに成功している。又、内部を透視できるので、麻桶毛に閉じ込められていた女の子も、このめがねで発見した。



「吸血木」

鬼太郎の下駄の秘密って何だ?

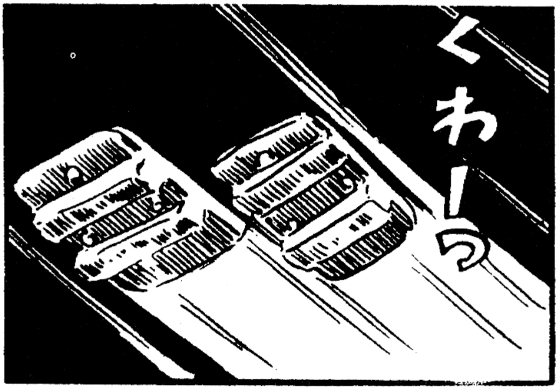
鬼太郎のトレードマークは、カランコロンという音のするあの下駄である。下駄は今や、鬼太郎のからだの一部となっている。この下駄は、自在にコントロールすることができるところから「リモコン下駄」と呼ばれている。鬼太郎も初めの頃は、普通の下駄を履いていた。なぜなら、しゃくにさわって電柱を蹴って割れたことがあるからだ。

鬼太郎が今のリモコン下駄を履くようになったのは、夢の世界に住む妖怪まくら返しと対決した時からだ。

まくら返しは、夢の中に棲む妖怪で、人の夢をさらっていく。鬼太郎はさらわれた子供を助け出すためには夢の世界に行かなければならない。この世と夢の世界の境界には、二つの世界を結ぶ「夢のかけ橋」があるが、その橋を渡ることが出来たのも、この下駄の霊力のおかげである。

この下駄は攻撃用の武器としても活躍する。古い木の妖怪逆柱がニセのリモコン下駄になりすましたことがある。逆柱は、一度履くと脱げないために、それを履かされた鬼太郎は、丸二日間も逆柱にコントロールされ、ふらふらになるまで踊らされた。この時に鬼太郎のリモコン下駄は、妖気

をさえぎる箱の中に閉じ込めていたのだが、目王親父がそれを発見し、箱のふたを開き解放したので、本物とニセモノの下駄合戦が始まった。勿論、本物が勝ったことは言うまでもない。



「げた合戦」



鬼太郎誕生の秘密



なぜ、鬼太郎は墓の下から生まれたのか？

その体に数々の秘密を持つ鬼太郎は、人間ではないことは明らかだ。では、妖怪の一種なのか、いや、それとも、人間には知られざる種族なのか？

そもそも鬼太郎は、どうやってこの世に誕生してきたのだろうか？　一般に鬼太郎が市民権を得たのはテレビ化によるところが大きく、テレビの鬼太郎しか知らない読者には、鬼太郎がどうして誕生したのかは知られていない。

鬼太郎は、ある嵐の夜、母親の墓の下から生まれたのだ。土葬された母親の胎内から自力で脱け出し、墓石を手で押しのけて、この世に誕生してきたのである。なぜ、鬼太郎はこのような奇怪な運命の下に生まれなければならなかったのだろうか？

鬼太郎の父親と母親は、鬼太郎が生まれてくる以前、人里離れた山奥の穴の中でひっそりと暮らしていたが、食べ物がなくなり、仕方なく町に出て古寺に住みついていた。しかし、二人とも病気になり、治すにも金がなくてはどうにもならず、その金欲しさから母親は自分の血液を血液銀行に売って暮らしていた。

ところがある日、その血液銀行で母親の血液が、人間の血液ではなく、幽霊の血液ではないかという疑いがもたれる。調査を命じられた血液銀行の社員水木が、その血液を患者に輸血した病院を訪れてみると、患者は死んだまま生きているのだ。つまり心臓が止まって、体温も死人と同じなのに、何も食べずに生きている。まるで「幽霊」なのだ。

原因は血液にある、という結論に達し、水木は献血者カードを調べるが名前はない。だが、なぜか住所が、当の水木と同じなのだ。同じ住所といえば、隣の無人の古寺しかない。

水木はある夜のこと、恐る恐るその古寺を訪れる。と、そこで彼が見たものは、血を売って身体の弱っていた鬼太郎の母親と全身包帯だらけの不治の病に冒された父親だった。しかも、母親は妊娠三ケ月だという。

水木は、会社に報告しようと思うが、胎内の赤ちゃんが生まれるまで誰にもいわないで欲しい、という母親の願いを聞き、八ケ月待つことにする。しかし、八ケ月後、再び水木が古寺を訪れてみると、二人とも死んでいたのだ。哀れに思った彼は、両親を墓に埋めてやろうとするが、父親の身体はすでに腐ってどろどろに溶けていたので気持ち悪く、母親の死体だけ墓の下に埋めてやる。

ところが、それから三日後、水木が再び墓地を訪れると、なんと数日前、埋めたばかりの母親の

墓から、オギャアという声がして、土の中からにょっきりと手が出て、やがて墓石を押しのけて、世にも奇怪な赤ん坊が這い出してきたのだ。左目のつぶれた、人間の姿はしているが、とうてい人間とも思えない生き物だった。鬼太郎はこうして、この世に誕生したのだ。



「鬼太郎の誕生」

これが鬼太郎誕生の瞬間だ！



「鬼太郎の誕生」



「鬼太郎の誕生」

鬼太郎の祖先の幽霊族って何だ?

鬼太郎は、人間と霊の中間に属する「幽霊族」である。幽霊というと霊界を彷徨っている死んだ人間の霊魂のことだと思うかもしれないが、幽霊と幽霊族とは違う。幽霊族は、れっきとした一種族である。その歴史も、今の人間が地球に誕生するよりも遙かに古くから、すでにこの地球に生息していたのだ。いわば、「第一期人類」ともいうべき地球の先住民なのである。

その鬼太郎の祖先の生活が絶頂期を迎えた頃(紀元前二万年頃)、どこからともなく姿形は「幽霊族」に似ている「人間」という奇妙



「鬼太郎の誕生」

な種族が出現して、まるでネズミが繁殖していくようにどんどん増えていったのだ。そして、本来おとなしい性格の「幽霊族」は、次第次第に「人間」に圧迫され、山や森の奥深くに住むようになった。

それから千年、二千年と時が経つにつれて、「人間」はますます増え続け、とうとう「幽霊族」は、この地上で安住の地がなくなり、いつしか穴の中でモグラのような暮らしをおくらなければならなくなったのだ。

先祖たちは生きるために、人間の寝静まった夜になると穴からそっと抜け出しては、カエルやオケラや虫などを食べていたが、やがて飢えで仲間たちがひとり減り、ふたり減りして、とうとう同族は鬼太郎の両親だけになってしまった。



「鬼太郎の誕生」

二人は同族を絶滅させないために、身の危険を感じながらも、食料を求めて人跡未踏の山奥から人間の住む町に出てきて、古寺をすみかにしていたのだ。だが、すでに明らかにしたように、運が悪いことに二人とも病気になり、死んでしまった。しかし、奇跡的にも鬼太郎が生まれてきたことにより、「幽霊族」は絶滅せずに生き残ったというわけなのだ。

古寺を訪れた血液銀行の社員の水木は、鬼太郎の親父が死ぬ前に、この幽霊族の祖先にまつわる話を延々五時間に渡って聞かされたのである。

幽霊族はなぜ絶滅したのか？

幽霊族は、人間を上回る霊能力を持っている。それなのに、なぜ絶滅するまで黙って耐えていたのだろうか。鬼太郎の父親の言うように、いくらおとなしい性格だからといっても、絶滅するまで無抵抗なほど、幽霊族の祖先も馬鹿ではあるまい。

では、鬼太郎の父親が嘘を言ったのか？　いや、父親も実際に見た訳ではない。幽霊族に伝わる伝説を話したのだ。他にも幽霊族絶滅に関する説がある。

そのひとつは、人間に滅ぼされたのではなくＵＦＯ人に滅ぼされたとする説だ。ＵＦＯ人は、幽霊族や妖怪たちよりも大昔から地底に住んでいるといわれる以外正体は謎だ。好奇心の強い鬼太郎の祖先たちは、ＵＦＯの秘密を解明しようとして、もう少しで解明しかけたところをＵＦＯ人に一掃され、絶滅させられたという噂がある。

鬼太郎は、このＵＦＯ人と戦ったことがある。ＵＦＯ人は死者を蘇らせ、地上を占拠したので、生者と死者が入り乱れての戦争になった。人間のどんな兵器も役に立たなかったが、鬼太郎と仲間の妖怪たちの力で、なんとか攻撃は食い止められた。

ＵＦＯ人が地上を攻めてきた理由は、大昔に鬼太郎の祖先たち「第一期人類」がＵＦＯの秘密を解明しようとしたのと、人間が原爆や水爆の実験で地底へ悪影響を及ぼしたかららしい。この戦いで、ＵＦＯは又、地底へ逃げてしまったために、幽霊族絶滅の真相は謎のままだ。

　鬼太郎の祖先たちは、人間が自然を破壊しようとしたので制裁を加えようとしたが、対する人間は武器で立ち向かい、その武器の力で滅亡した、と考えることも出来る。だが、人間のいかなる兵器も幽霊族や妖怪には無力に等しいのだから、この戦争による絶滅説には無理がある。幽霊族が絶滅したのは事実なのだから、何かが起こって人間に破れたことは確かだ。そこで、もうひとつ考えられることがある。

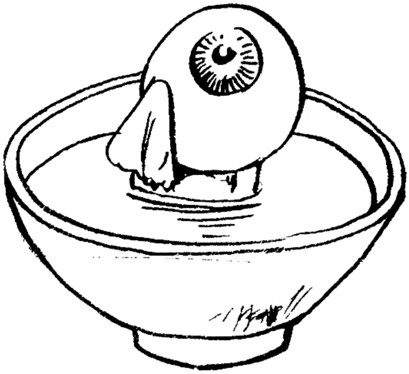


「大海獣」

鬼太郎は、山田秀一という少年天才科学者が開発した「サラマンドラの粉」を浴びせられ、三億年前の大海獣の血を輸血されて、大海獣と同じ姿に変身させられたことがある。サラマンドラの粉は、古代にそれを作る秘術があったといわれ、製法は謎とされているが、これを使用すれば、幽霊族のパワーを封じることが出来る。山田秀一は、考古学も研究していたので、その製法を古代から得たとすれば、鬼太郎の祖先は、古代にこのサラマンドラの粉で、パワーを奪われ、人間の武器で滅亡させられた、とも推理できる。

さて、もうひとつは、幽霊族の天敵ヒ一族によって滅ぼされたという説だ。ヒ一族は、その体内に幽霊族や妖怪の力を封じる物質を持っている。彼らの前では、幽霊族やどんな妖怪も、まったく無力になる。ヒ一族は、ヒルを飼育して人工的に作ることが出来るので、古代の人間が、飼育の仕方を知っていれば、幽霊族を滅ぼすことなど朝飯前かもしれない。しかし、これもあくまでも仮説にすぎない。幽霊族絶滅の真相は、依然として謎である。

鬼太郎の目玉親父の秘密



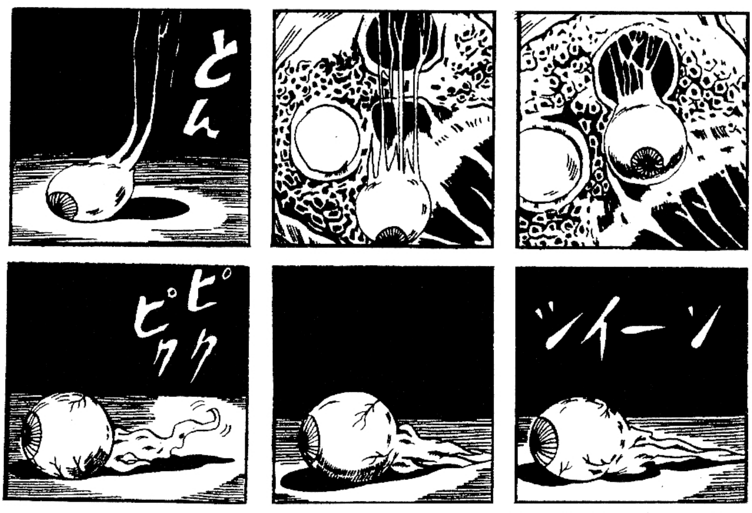
死んだ父親が、目玉親父になって復活したって本当か？

鬼太郎は生まれながらにして左目がなかった。なぜだろうか？
彼の死んだ母親にも右目がなかったので、鬼太郎が片目なのは母親の遺伝なのかもしれない。いずれにしても鬼太郎の左目は今でもぽっかりと空洞になっている。だが、そこにはご存知、目玉親父が住んでいる。
では、この目玉親父は、いつから鬼太郎の左目に住みつくことになったのか？　いや、そもそもなぜ目玉が父親なのか？
読者の多くは、目玉親父は鬼太郎の左目から進化したものだと思っているかもしれないが、そうではない。目玉親父は、目玉になる前は、あの古寺で死んだ父親だったのだ。
ではなぜ、あの父親が目玉になったのか？
話を鬼太郎誕生の時に戻そう。鬼太郎の誕生を目撃した水木は、あまりの人知を越えた奇怪さに、肝をつぶし逃げ出してしまう。だが、更に信じられないような奇跡が起こった。古寺に放置されて

いた父親の腐った死体から左目だけがズルズルと抜け出し、しかも、その目玉はピクピクと動き、手足が生え出したのだ。

幽霊族最後の末裔である我が子を守ろうとする親の執念がこのような奇跡を生み出したのか、いずれにしても、鬼太郎の父親はトカゲがしっぽを切られても、又生えてくるように不思議な生命力で目玉となって復活したのだ。

そして父親は、墓場で泣いている鬼太郎を保護し、頼るところがないので鬼太郎を水木の家に連れていく。哀れに思った水木は、鬼太郎を育てることになり、親父も日夜、鬼太郎が無事に成長するのを見守ることになるのだ。



目玉親父誕生の瞬間

目玉親父は、いつ鬼太郎と命名したのか？

目玉親父となって蘇った父親は、墓場で泣いている鬼太郎に駆け寄り、「鬼太郎、しっかりしろ！」と叫んでいる。このことから父親は多分、鬼太郎が生まれる前から、男の子だったら鬼太郎という名前にしようと決めていたのだろう。

さて、鬼太郎は、幼年期を水木の家で育てられるが、六歳を迎える頃から、幽霊族としての不思議な能力に目覚め始める。目玉親父の教育で、夜な夜な、こっそり家を抜け出しては墓場に行き、死人の霊と遊んだりするので、近所には友達ひとり出来ない。

左目のない顔も次第と醜くなってきて、いつしか「墓場鬼太郎」と呼ばれるようになる。

その後、鬼太郎親子は、放浪の中で悪い妖怪たちと百戦練磨の戦いを続けていくが、やがて、その戦いに勝利するたびに、カエルや毛虫やオケラや昆虫たちが、鬼太郎の強さをたたえて、「ゲゲゲの歌」を合唱するようになり、「ゲゲゲの鬼太郎」という名前は、ここから



「鬼太郎の誕生」

つけられた。


そのころ
人しれぬぬまの中の島で
鬼太郎を尊敬する
毒がまや　げじげじたちが
鬼太郎の強さを
たたえる歌
「ゲゲゲのゲの歌」を
合唱していた・・・


ゲゲゲゲゲゲ
スポーン
ゲゲゲゲゲゲゲ

「手」

鬼太郎のちゃんちゃんこは、何で出来ているのか？

鬼太郎の着ているあのちゃんちゃんこは、そもそも、鬼太郎が七歳になった時、目玉親父がどこからともなく持ってきたものだ。

目玉親父によれば、あのちゃんちゃんこを組織している繊維は「霊毛」とか「霊糸」とか呼ばれる特殊な繊維で、鬼太郎の祖先が、死ぬ時に一本だけ残す霊の糸のことで、その何万人かの祖先の霊毛の一本一本を編んで作られたものらしい。

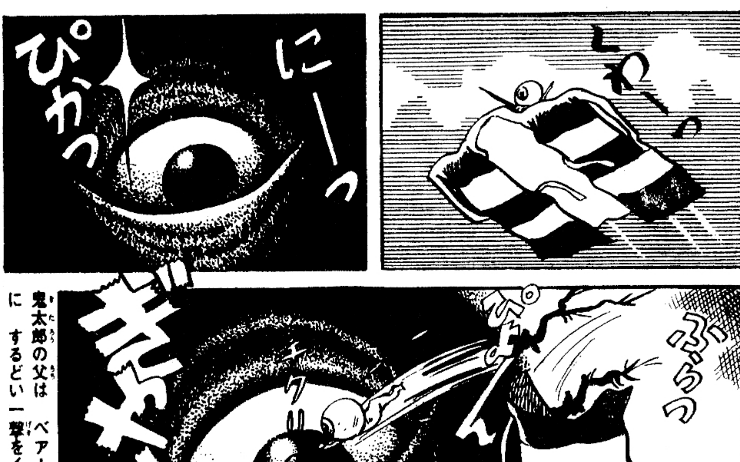
つまり、このちゃんちゃんこには鬼太郎の祖先たちの霊力が宿り、それが鬼太郎を守っているのだ。だからこそ、鬼太郎が危険になった時は、その身を守るために、リモートコントロールで自在に動き、又、鬼太郎が意識を失っていても助けてくれる万能の武器である。これさえ着ていれば、この世と地獄を自由に往復出来るのだ。

鬼太郎が初めてこのちゃんちゃんこの力を思い知ったのは、西洋妖怪軍団を率いて日本征服をたくらむ大妖怪バックベアードと沖縄の鬼界ケ島で戦った時のことだ。

鬼太郎は島の人々を救い出すために島を訪れるが、ちゃんちゃんこを奪われてしまいベアードの巨大な眼力のパワーに夢遊状態にされてしまう。

早くちゃんちゃんこを見つけなければ、と目玉親父は懸命にちゃんちゃんこの行方を追い、沼に浮かんでいるのをやっと見つけ出すが、力つきて倒れてしまう。だが、親父の鬼太郎を思う涙が霊毛を濡らし、その涙でちゃんちゃんこが真っ赤に染まり、祖先の霊によってひとりでに動きだすのだった。

そして、目玉親父はちゃんちゃんこに乗ると空を飛び、ベアードの急所である目玉に一撃を加えたのだ。ベアードが倒れた瞬間、それまで夢遊状態だった鬼太郎も意識を回復し、ちゃんちゃんこを取り戻し、無事に島の人々を助けることができたのである。鬼太郎は

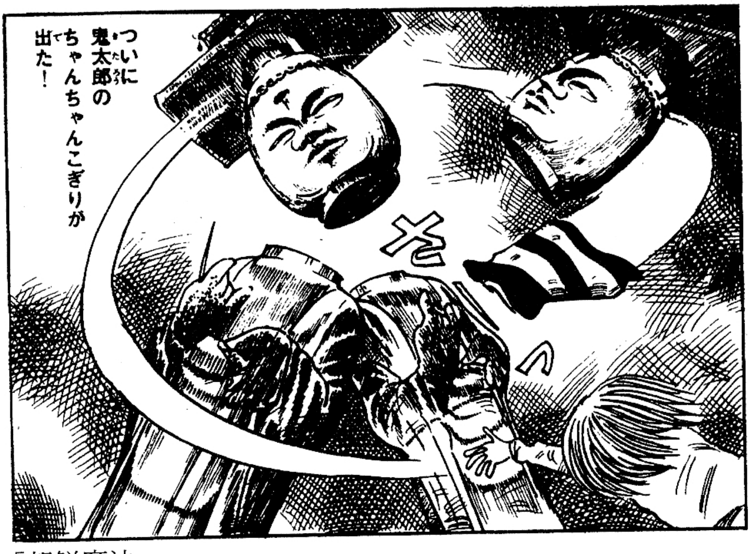


「妖怪大戦争」

この時ほど、ちゃんちゃんこに宿る祖先の霊のありがたさをかみしめたことはない。

又、この霊毛（霊糸）は、時には恐ろしい武器にもなる。霊糸針といって、霊毛を針のように一本一本敵に発射することが出来るのだ。

鬼太郎は、猫仙人という妖怪と対決した時に、この針を飛ばしたことがある。猫仙人は、今から二千年前、不老不死の仙術を発見した仙人だ。肉体を古墳の中に置いて、魂は猫に入り込み、猫の集団を操っていたが、仙人の魂は猫ばかりではなく、人間にも入り込む。そのため、鬼太郎も危うく餌食になるところだった。



「朝鮮魔法」

目玉親父はなぜ、目玉なのか？

目玉親父は、なぜ目玉となって復活したのだろうか？　親の執念のなせる技とするなら、なぜ目玉なのか？　鼻でも口でもよかったはずだ。

幽霊族の主食は目玉である。だから栄養が目玉に集中したのと、父親が死の瞬間、精神を目玉に集中したものによる、というのは建前である。本当は目玉になる前の父親の死体は、すでに述べたようにとても埋葬など出来ないほど、ドロドロに腐っていて、生命を宿らせる部分は目玉しか残されていなかったのだ。

しかし、鬼太郎の両親の死体を発見した水木が、父親の死体を放置してくれたのが幸いだった。もしも、火葬になどしていたら、鬼太郎はこの世に誕生していなかったことになるし、親父も目玉になって復活することもなかったであろう。これもやはり、幽霊族という種族を守ろうとする執念の奇跡と呼ぶべきであろう。

なぜ、目玉親父は相手の脳をコントロール出来るのか？

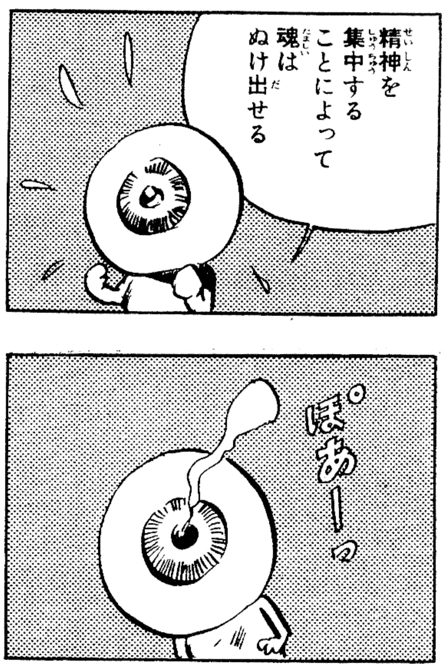
目玉親父は、身体が小さいので、敵の妖怪によく食べられるケースが多い。しかし、親父はそれを逆手に利用して相手の体内に入り、敵の脳をコントロールする戦術を得意とする。この戦術を「体内戦術」という。ブリガドーンと呼ばれる妖気の気体を研究しているガモツ博士の脳に入り、その妖気放出機を逆にまわすようコントロールしたり、ねずみ男の体内に入り、トランクに閉じ込められていた鬼太郎を救出したりした時に、この戦術は成功をおさめた。

死神にだまされ大砲につめられて、大空に打ち上げられたことがある。人間ならこっぱみじんになるところだが、親父は空で膨張して、まるで風呂敷のような目玉となって死神を包み殺してしまうのだ。なんという不思議さだろうか。これを「風呂敷包みの術」という。

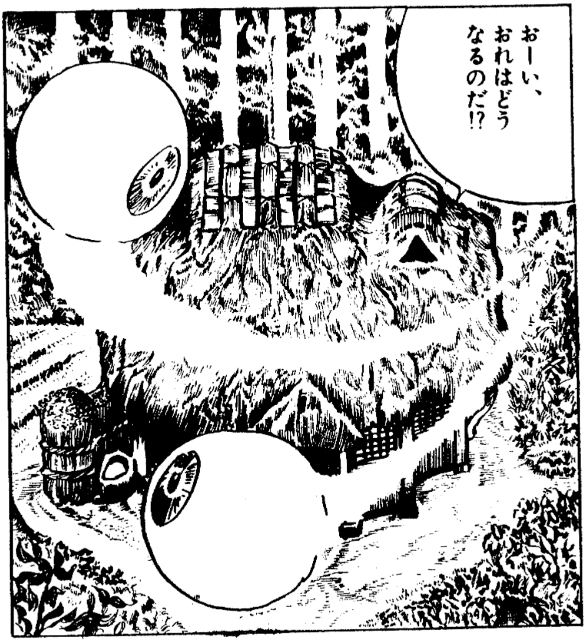
妖怪でも人間でも幽霊族でも、身体からたましいが抜けると人形も同然になる。鬼太郎もたましいを抜かれると手も足も出ない。だが、目玉親父は、自分のたましいを自由に身体から出入りさせることができる。妖怪「獏」にたましいを抜かれた鬼太郎を救出するために「獏」の中にたましい

となって入り込み、鬼太郎のたましいを取り戻したことがある、これを目玉親父の「離魂術」という。

又、これはほとんど知られていないが目玉親父は、空を飛ぶことが出来る。先の「風呂敷包みの術」や「離魂術」などを使って飛ぶのではない。まるでスーパーマンのように両手を広げて、岩から岩へ、屋根から屋根へ空中滑走するのだ。ただし長距雑は無理で、五、六メートルくらいならスイスイと飛ぶのは朝飯前だ。その飛んでいる姿はまるでムササビのようだ。



「貘」

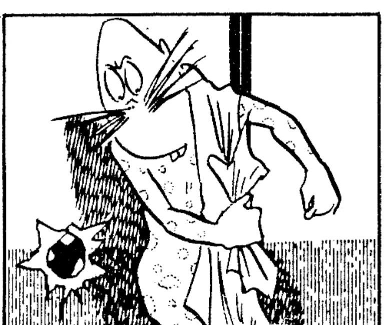

おーい、おれはどうなるのだ!?

鬼太郎のライバル・ねずみ男の秘密



ねずみ男は三百年間、風呂に入っていないって本当か？

ねずみ男は一体何歳なのだろうか？　普段は全身を衣で被っているが、裸になったその皮膚の汚なさ、そして裸で平気で室内をうろつきまわる所から見て多分、中年男だと言われている。また、その言動から三百年生きているというのも、あながち嘘ではないようだ。しかし、三百五十年生きている、と吹聴することもあり、どっちが本当なのか分からない。ところで、そうなると三百年は風呂に入っていないということになるが、これは嘘だ。「妖怪赤舌」の口の中にある温泉に入っているところや、前科十八犯の泥棒と露天風呂に入っているところなどが目撃されている。

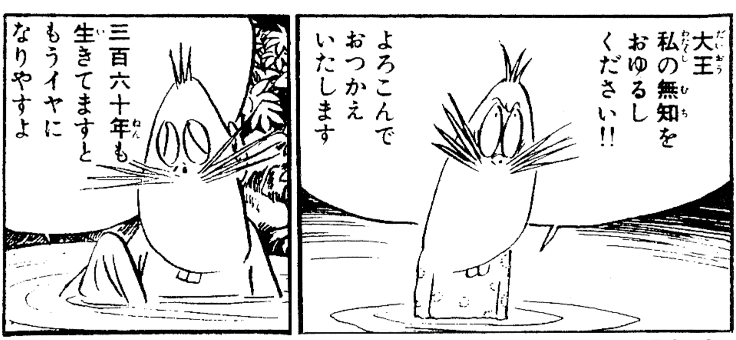


「陰摩羅鬼」

ことほど左様にねずみ男の虚言癖はあまりにも有名だ。「長い間花の都ウイーンで暮らしてきた男よ」などと言ったかと思うと「鬼太郎と妖怪学習院で同窓だった」などと言ってみたり、口八丁手八丁の口車で人をだますことにかけては天才的だ。

ねずみ男がその手で「長寿教」というインチキ宗教の教祖になったことがある。自分の鼻糞も丸めて入っている丸薬を五粒十万円で売り、家まで建てるほどの大金持ちになった。しかし、悪いことは出来ないもので、閻魔大王にバレて、鬼太郎とねこ娘によって元の貧乏人に逆戻り、結局ねずみ男は大金とは無縁であることが証明されている。

彼は大の怪奇趣味らしい。血液銀行の頭取の禿山が、鬼太郎の親父を探すために新聞広告で百万円を提供したことがあった。その時にねずみ男は、目玉親父を捕まえて、百万円の代わりに、ドラム缶一本の血液を貰って帰った。その血液は「吸血木」という新しい生物、植物幽霊種を育てるもので、金よりも怪奇なものをほじくりだし成長させ



「赤舌」

るのが、唯一の生き甲斐、と、しょっちゅう口にしているから、これは本当のようだ。
なぜ、ねずみ男は死なないのか？　ということに関して、ある医者は海綿生物や、扁虫類、腔腸生物といった原虫類には死がないので、ねずみ男もこの原虫類に属しているのではないか、という説を唱えているが真偽は分からない。



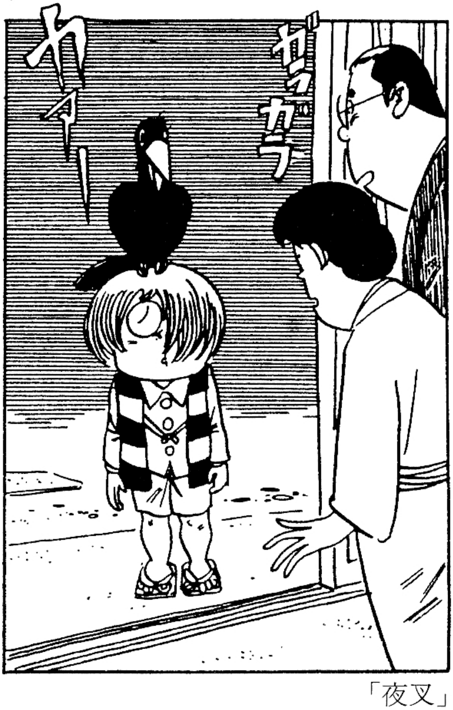
「猫娘とねずみ男」

鬼太郎とねずみ男はいつ知り合ったのか？

ところで、鬼太郎はねずみ男といつ、どこで知り合ったのだろうか？

鬼太郎が「夜叉」にたましいを奪われた時のことだ。鬼太郎は、「夜叉」の奴隷になって人間を招き寄せ、「夜叉」に人間の血を吸わせる手伝いをさせられる。鬼太郎は「夜叉」に操られていたので意識がない。おまけに目玉親父は大雨で川に流され、二人は離れ離れになってしまう。そこに魔人ドラキュラの四代目の下男としてハンガリアから日本にやって来たねずみ男に拾われたのだ。

しかし、ねずみ男は目玉親父を天ぷらにして、ドラキュラの四代目に食べさせようとする。その頃、鬼太郎は、人間を招き寄せるために「夜叉」が作った下宿屋に下男として働



「夜叉」

かされていたが、そこへ偶然やって来たのが、親父を食べたドラキュラとねずみ男だった。これが鬼太郎とねずみ男の最初の出会いである。



「おどろおどろ対吸血鬼」

ねずみ男は馬糞の雑炊を食べるというのは本当か？

ところで、ねずみ男は普段何を食べて生きているのだろうか。何でもたべるが、但しナマモノが好きだ。「朝飯は青蛙が一番おいしい」といってはは蝦蟇蛙を食べているし、目玉親父を食べようとしたことさえある。

人間に汚されていない深山のなめくじも好物だ。幽霊電車に乗った時には、「ユダヤ人の鼻の生焼け」と「犬の舌の刺身」「蝙蝠の毛と魔法使いのミイラ入りの蝦蟇の胃袋」弁当を食べているところから、半妖怪としてはかなりのグルメである。

グルメなのはいいが、とにかく食い意地が張っていて、何でも食べようとするのが悪い癖だ。

鬼太郎が峠の妖怪ぶるぶると戦った時のことだ。鬼太郎は髪毛針で、ぶるぶるを木に張りつけ動けなくしたが、ねずみ男がそれをクラゲの干し物と間違えて食べてしまったため、ぶるぶるが身体に入ってしまったことがあった。お陰でねずみ男は、身体がぶるぶる震えだし、鬼太郎が助けてくれなかったら今頃は凍死はしていたであろう。ぶるぶるは熱さが苦手なため、鬼太郎はねずみ男を

風呂に入れ、その口からぶるぶるを外へ誘い出し、出てくるところを風船に閉じ込めたのだ。



「天邪鬼」

ねずみ男は、脳膜炎を二回も患ってるって？

鬼太郎が、吸血鬼エリートと対決する前のことだ。空腹でよろめきながら歩いていたところを偶然通りかかったねずみ男にいきなりビンタを食らわされたことがある。頭にきた鬼太郎は、ねずみ男と口論になり、殴り返そうかと思った時、目玉親父が、

「鬼太郎！　気にするなっ、あいつぁ二回も脳膜炎をわずらってるんだ」と、鬼太郎を止めたことがある。脳膜炎というのは、脳を覆っている膜に細菌が侵入して機能障害を起こす症状で、ねずみ男の不潔さから見て、脳膜に菌が入っても不思議ではない。

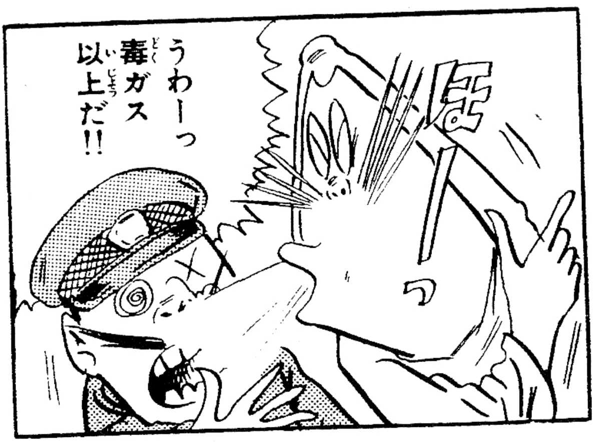
そういえば、鬼太郎が吸血鬼エリートに体を溶かされた時、ねずみ男が恐山にある妖怪病院まで、雪の中を溶けた鬼太郎を運んでくれたことがある。その時、彼は、恐山に行くのは二〇〇年振りだと言っている。二〇〇年前、恐山に行ったのは、この脳膜炎の治療のためかもしれない。

ねずみ男の口臭はゴジラの放射能と同等の威力があるか?

ねずみ男の口臭は強烈だ。それもどうやら感情の起伏にあわせて、口臭をコントロールしているふしがある。

妖怪の死神が抱き付いた時にも思わず「クサイ、近づかんでも話ができる」と顔を背かせるほどの臭いだから、人間はそれ以上だ。道端でねずみ男を尋問した警官が、口臭を吹きかけられ、思わず「毒ガス以上だ!」「もう一発、口臭をふきつけられたら命にかかわる」と言わせたほど、オーバーに例えるならば、あのゴジラの放射能と同等の威力があるといっても過言ではない。

妖怪反物との戦いでは九尾のきつねに操られている村人に向けて口臭を発射させたし、それを見ていた井戸仙人は「催眠弾



「赤舌」

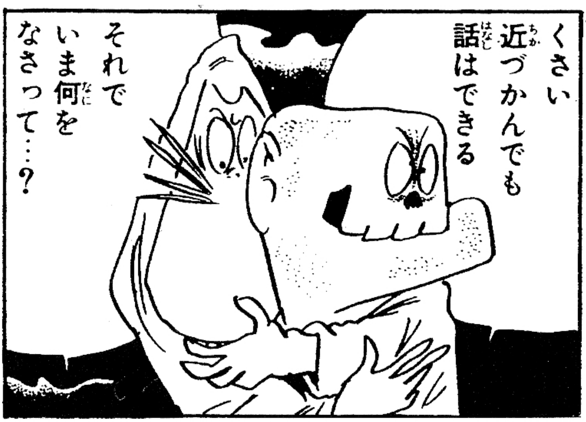
よりもよく効く」とのたもうた。目玉親父すら一目置く、井戸仙人に言わせたのだから、折り紙つきだ。

この口臭は時には人命を奪うこともある。落葉喜之助を組長とする暴力団「落葉組」を親分子分共々、壊滅させたこともある。ねずみ男の口臭がゴジラの放射能と同等の威力があるといったのは決してオーバーでない。なにしろ、その吐く息で前方十メートル四方の蝿が落ちるのである。

口臭にも増して、風呂にも滅多に入らず、おまけに三百年も洗濯していないという身にまとった衣の臭いもあって、その体臭もただの臭さではない。

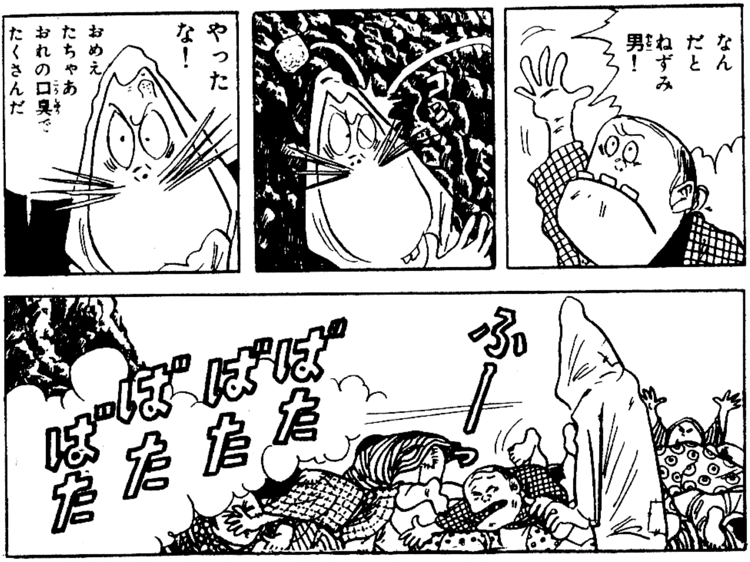
銀座にある上品をもってなる「プリンス書房」で、吸血木を栽培するために江戸川梅毒著の「植物幽霊学」という本を立ち読みしている時、あまりの臭さに店員から苦情が出るほどだ。

しかし、この体臭が人を助けることもある。鬼太郎が妖怪「さら小僧」の毒小便を浴びて、動け



「死神」

なくなったことがある。この時、とどめを刺そうとして飛びかかってきた「さら小僧」に向けて、ねずみ男が悪臭の染み込んだ衣を投げつけたのだ。あまりの悪臭に、「さら小僧」は一時的に気がおかしくなったというくらい、その悪臭は想像を絶するものがある。



「妖怪反物」

ねずみ男の屁の威力を考察すると…

口臭、体臭、そしてその力以上に強力なのが屁の威力である。だが、これを使用することにねずみ男自身、相当なエネルギーを消費するため、自分自身では、屁核三原則というのを立てている。「屁をむやみにこかない。悪用しない。臭いを嗅がさない」これがねずみ男の屁核三原則である。しかし、その三原則を破った時は恐ろしい。彼の放屁力は大別して五つに分類される。そのひとつが美女の生血を求めて、二十年間世界を放浪してきた吸血鬼エリートとの戦いで放屁した「ロケット屁」である。

この屁の風圧はロケット噴射に近く、異常な悪臭を放つ。吸血鬼エリートさえ一時は失神したのだから普通の人間がまともに食らうと即死するに違いない。

「妖怪いやみ」と戦った時にも、ガールフレンド花子をめぐって鬼太郎と取り合いになり、「くさーい男、インキン、タムシ男」と鬼太郎に罵られ、その歌に逆上したねずみ男は、豪快に総力を結集してこの「ロケット屁」を放ち、鬼太郎も少女も、そして自分まで、失神してしまうのだ。

この「ロケット屁」は、肛門の奥で十年間ためていなければならず、何かの理由で彼が危機にお

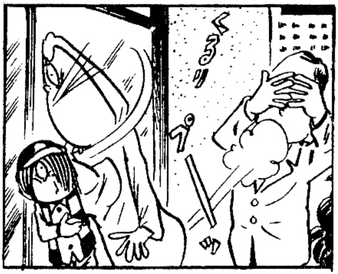
ちいると、自動的に肛門の元栓が抜けるというが、確認はされていない。

二つめの放屁は「回転屁」である。鬼太郎が日本の妖怪ばかりでなく世界の妖怪まで退治すると決意した旅立ちの日、久しぶりに再会した二人は、ケンカになり、その反動で目玉親父がペチャンコにつぶされてしまう。

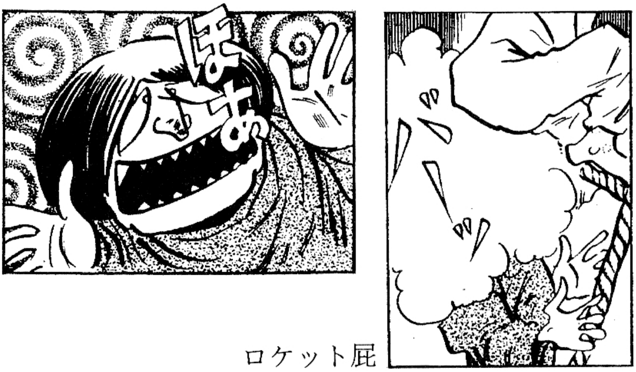
慌てた二人は、親父を近くの病院に入院させようとするが、病院の受付で断わられる。その時、その対応に激怒したねずみ男は、クルリと身をひるがえすと同時に放屁。受付は、その臭さのために顔を覆う。この放屁からねずみ男は、口臭と同じく感情によってその屁臭に強弱がつけられるようだ。

図解、これがねずみ男の五大放屁力だ！

読者には、不快な気分を与えることをお詫びし、万が一、食事中ならば、食べ終わってからこのページをお読みいただきたい。

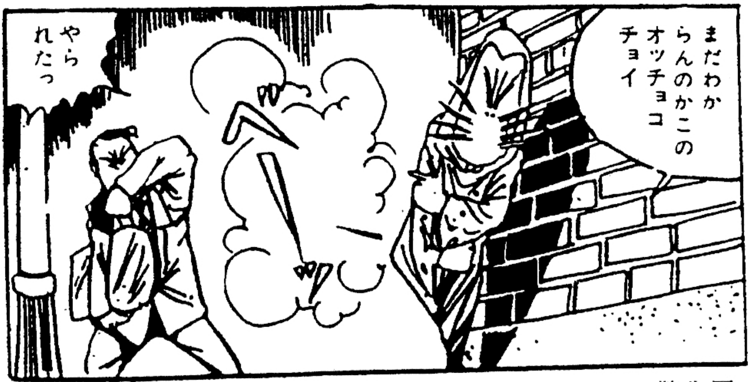


回転屁



ロケット屁



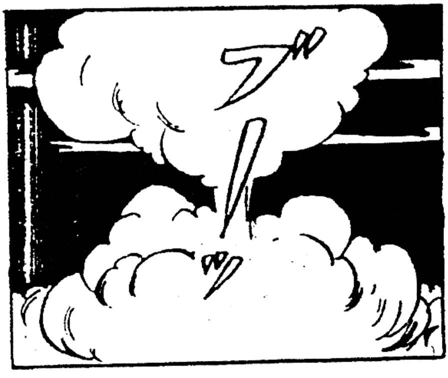


警告屁



せつな屁



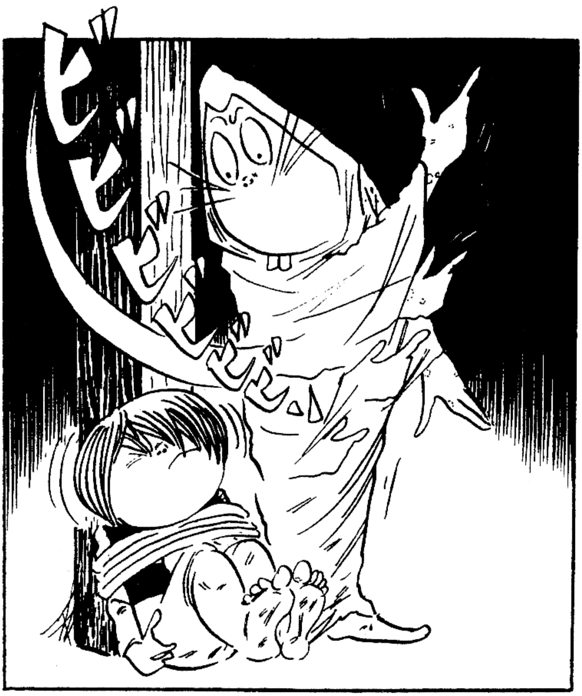


だましっ屁

ねずみ男のビンタで鬼太郎が卒倒したことがあるんだって？

ねずみ男の数ある技の中で、口臭、屁に次ぐ強力な技がビンタだ。吸血鬼エリートと戦った時に鬼太郎は、四回もこのビンタを浴びせられた。その中の一回は、空腹だったため鬼太郎は卒倒してしまう。

鬼太郎はこの戦いでエリートのギターの音に操られ、捕えられてしまうが、ねずみ男は例によって金のためにエリート側に味方し、縛られている鬼太郎に仲間になることを強要する。更にそれを断わると「ぼくの友情を理解しないなんてなさけなくなるなあ」と、鬼



「吸血鬼エリート」

太郎をビビビビンと殴った。そしておまけに殴り終えた後には、白々しく大粒の涙さえみせる。
又、ねずみ男はエリートにもビンタを浴びせ、それを食らったエリートから、こういう御褒めの言葉を貰っている。「思ったより強烈なパンチだな」と。このエリートとの戦いでは、都合六回ビンタを披露している。
ねずみ男は相手構わずこのビンタを使う。そのため鬼太郎の「ゲゲゲ」に対して、「ビビビのねずみ男」の称号が与えられている。それを喜んでか、総理大臣にまでビンタを浴びせている。そのショックで総理大臣は一時、霊感が湧いたような気がしたと発言しているが、真意のほどは明らかではない。

鬼太郎の仲間の妖怪たちの秘密



一反木綿は不死身なのか?

一反木綿は半面妖怪で、身体は布で出来ている。空を飛び、長い布をヒラヒラさせて漂っているように見えるが、長い身体と柔軟性を利用して、油断をしている相手の身体に巻きつき、締めつける。なんとも得体の知れない妖怪だが身体をカミソリのように鋭くして、バサバサと相手を斬る「もめんきり」という技を得意とする。

身体が布のために、ハサミに簡単に切られるという弱点があるが、水をかければ再び生き返る不思議な習性がある。

一反木綿は、沖縄の鬼界ヶ島の戦いで、上陸前に偵察に来た魔女と対決し、心臓に毒針を打たれて一度死亡した過去を持っている。だが、八百八狸が、日本征服のために送り込んだ妖怪獣蛟龍との戦いで復活する。八百八狸に苦戦する鬼太郎に「こりゃ正義妖怪の信用問題にかかわる」と、頼もしいことを言って闘志を奮い立たせてくれる。妖怪軍団の空の守りというべきか。



「妖怪大戦争」

子なきじじいにリウマチの持病があるのを知ってるか？

子なきじじいは、金太郎の腹がけをして背中に蓑を着た妖怪である。赤ん坊のような泣き声を出し、相手にしがみつくと石のように固くなり、段々重くなって相手を圧死させる力を持っている。西洋妖怪フランケンシュタインの怪物をこの手でやっつけたことがある。

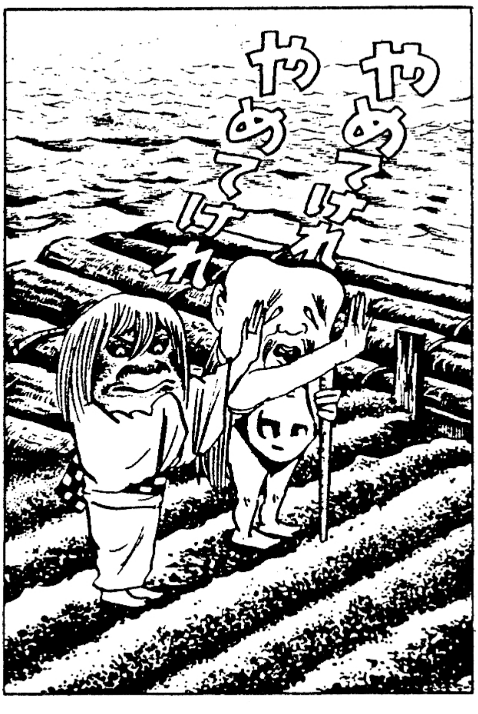
身体を石に変えるだけあって頭は、岩でも簡単に砕いてしまう。又、シャックリを相手に移すという奇妙な技を持っている。そんな彼の長年の悩みはリウマチの持病である。鬼太郎たちとよく温泉に行くのは、そのリウマチを治すためだ。

しかしこの子なきじじいは、鬼太郎や一反木綿らと鬼界ヶ島で凶悪な西洋妖怪軍団と対決した時に、実は一度名誉の戦



「妖怪大戦争」

死をしている。どうやって生き返ったのかは定かではないが、その後、電気妖怪「かみなり」との戦いで復活する。それ以後はなぜか常に「砂かけばばあ」と行動を共にしている。よほど気が合うと見える。



なぜ、砂かけばばあは、人間の悩みが分かるのか?

砂かけばばあは、砂をかけて相手の目をつぶす妖怪だ。爪の内側には砂をまく管があるというが、見た者は誰もいない。又、その髪の毛一本一本が筒状になっているらしい。そこから砂をマシンガンのように飛ばす荒技や、胃袋の中から大量の砂を吐き出して、火を消し止めることができる。

気が短く、すぐに相手を殴るので、ねずみ男は、彼女のいいカモでしょっちゅう殴られている。のんびり屋の子なきじじいとは対照的である。だが、そんな彼女も、不可解な事件を奇妙な方法で解決するので、人間にも慕われるところがある。

砂かけばばあも、やはり鬼界ヶ島の戦いで名誉の戦死者の一人であるが、その後、古きつねの白山坊が現れ、ピンチになった鬼太郎を助けるために復活した。

元々は竹藪に住んでいたが、現在は「ゲゲゲの森」に妖怪アパートを経営している。悩める妖怪たちのよき相談役でもあるのだ。

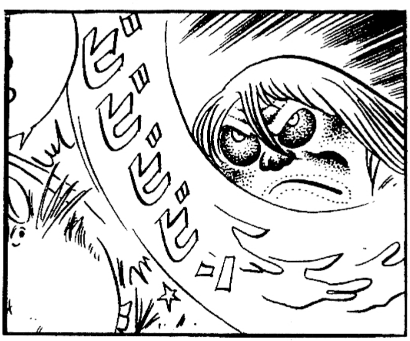
さて、砂かけばばあにも、知られざる超能力がある。そのひとつが「人間の相談事がわかる方法」

である。これには秘訣がある。相談者本人の髪の毛と爪を切ってイモリの粉と一緒に火にくべるのだ。

橋本花子という中学生が、砂かけばばあを訪ねてきたことがある。毎日考えごとばかりしている父親の悩みを知りたいというのだ。そこで砂かけばばあが、先の方法を行ったところ、古きつねの白山坊が花子を嫁にして食べてしまおうとしていることが分かる。花子の父親が金持ちになる代わりに、娘が十六になった時に、白山坊の嫁にやる約束をしていたのだ。

白山坊に見入られた人間は、自分と同じ生年月日の人間の、しかも死人の髪を焼いて、白山坊のすみかの周りにまかなければならない。すると白山坊は逃げ出すという。これを砂かけばばあの「妖怪封じの灰」という。

ところが、白山坊はしぶとく、石に化けて鬼太郎に襲いかかった。そこで鬼太郎は、持





っていた蜂の巣からジガ蜂を飛ばし、石に化けた白山坊の中枢神経に毒を注射し、動けなくしてしまう。そこで次には姫蜂を飛ばし、蛾の卵を注射する。すると、蛾の卵は白山坊の内臓を食い尽くして、やがて成虫になり、さなぎになり、最後には蛾になってしまう。なんという不思議な退治方法であろう。

又、砂かけばあは「砂太鼓」という「砂かけ家」の家宝を大切に持っている。普段はふところに隠しているが、壺のような形をしている。「ポン」と打てば機関銃のように、壺から砂が吹き出し、辺りを一掃する。煙羅煙羅という妖怪と対決し、その煙に巻かれた時、この「砂太鼓」を使って危機を免れたことがある。この時、八十年振りに使用したと言っているが、八十年前には何があったのか、鬼太郎もまだ聞いていていない。

砂かけばばあと子泣きじじいが妖怪漫才をしていたって本当か？

さて、韓国で妖怪ぬっぺらぼうが、暴れまわっていた時、鬼太郎は砂かけばばあと子泣きじじいに助っ人を頼もうとしたことがある。すると、目玉親父がこう言ったのだ。

「ありゃだめじゃ。妖怪ブームにのってテレビで漫才をやっとるからなあ」と。

ねずみ男が言った言葉ならば信用は出来ないが、目玉親父の言うことだから信用出来る発言とみていい。鬼太郎はテレビで二人の漫才を見た訳ではない。だが、砂かけばばあは、その後、ゲゲゲの森に五階建てのアパートを建てたので、多分出演料をガッポリとせしめたに違いない、と考えている。

さて、このアパートだが、五階にはねずみ男が住んでいた、しかし、悪魔ベリアルの攻撃で、まるでピサの斜塔のように斜めになってしまい、砂かけばばあは、おそらくそれで懲りたのであろう、今度は平屋の茅葺屋根のアパートを建てた。このアパートには鬼太郎も病を癒やすために居候させてもらったことがある。釜なりという妖怪に頭の毛を奪われた時のことだ。あのアパートはその後、

どうなったのだろうか。

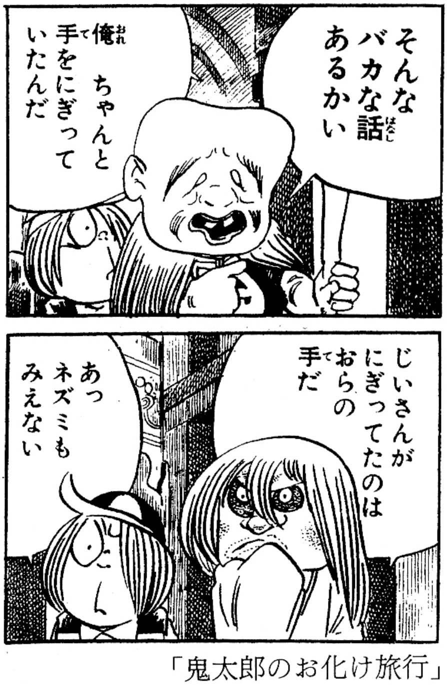


「朝鮮魔法」

砂かけばばあと子泣きじじいは出来ているのか？

砂かけばばあと子なきじじいは、なぜいつも行動を共にしているのだろうか？　テレビ漫才をしたのを始め、二人で世界旅行を計画していたこともあった。中国のチーの妖怪に、砂かけばばあが反物にされた時も子泣きじじいは、「これが砂かけか？」とその反物を悲し気に見つめていた。どう考えても二人の関係は普通ではない。おかしい。もしかしたら、二人は出来ているのかもしれない。

鬼太郎とフランスの片田舎の森の中にある蠟人形妖怪カリーカの館で迷った時、どさくさにまぎれて子なきじじいは、砂かけばばあの手を握っていた。あの二人の関係はやっぱり普通ではない。

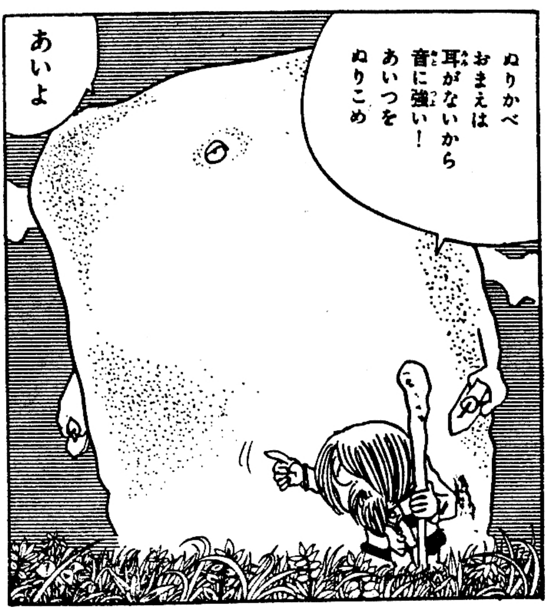


「鬼太郎のお化け旅行」

ぬりかべって何だ？
鬼太郎には他にもこんな仲間の妖怪がいる

ぬりかべは、夜の海岸や人気のない道、森の中などに突然現れて、人を驚かせる妖怪だ。押しても引いてもビクともしないし、相手を自分の体に塗り込んでしまう技がある。又、伸縮自在で大きさを自由に変えることが出来る習性がある。

鬼界ヶ島の妖怪大戦争で、吸血鬼軍団に倒されるが、鬼太郎が、ざしきわらし、というやさしい妖怪と一緒に、笠地蔵の代わりに、寂しい老人たちの家に正月の餅やしめ縄や干し柿などを届けなければならなくなった時に復活した。鬼太郎仲間の妖怪の中で最も大きく力が強い。



ぬりかべ

他にはこんな仲間もいる。以下列記してみよう。

山彦（呼ぶ子）

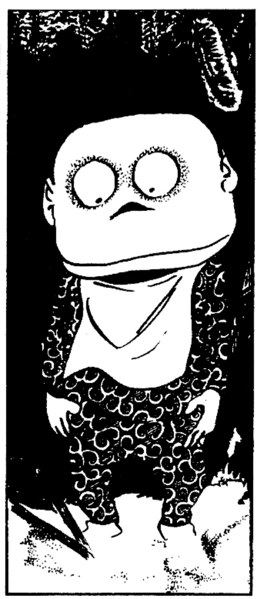
山こぞうとも呼ばれている。足は一本だが、山々や谷間にこだましながら飛び廻る妖怪で、いつの頃仲間になったかはハッキリしない。声が大きい以外に技といえるものはない。

つるべ火

別名妖怪ランプとも呼ばれている。火に弱い妖怪と対決する時に手を貸してくれる。姑獲鳥（うぶめ）を焼き殺すほどの熱さを持っている。

丸毛

妖怪逆柱に操られ、妖怪貯金箱になり金を盗ん





つるべ火



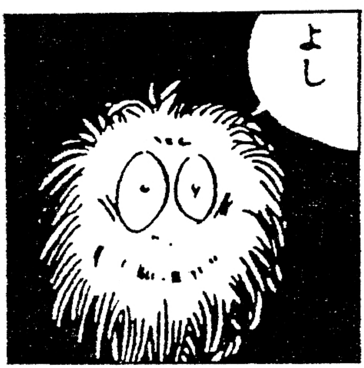
山彦　ざしきわらし

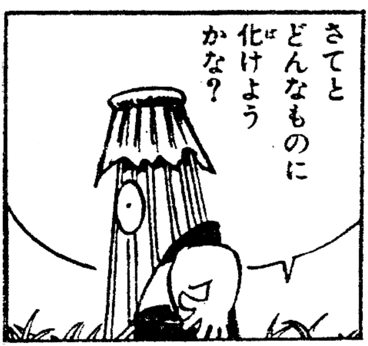
でいたが、鬼太郎に助けられ味方になった。気の弱い妖怪で、「妖怪大裁判」の時も鬼太郎を弁護しようとしたが、悪い妖怪たちに睨まれて、何も言えなくなった。中国の妖怪と対決した時は、諜報活動、つまりスパイとして活躍した。

傘化け

ねずみ男にだまされて、一度、鬼太郎と戦ったことがある。身体を回転させ、のこぎりのように相手を切り刻む技と催眠術を使い、鬼太郎をピンチにおとし入れたのだ。しかし、その後、誤解がとけて鬼太郎の仲間になる。世界で悪い妖怪たちを退治しに旅をしていた鬼太郎に、日本で又、悪い妖怪たちが暴れ出した、と、わざわざ通報しにきたこともある。

丸毛





傘ばけ

油すまし

ゲゲゲの森の村長さん。とにかく将棋好きな妖怪だ。将棋の妖怪「王」に鬼太郎の仲間の妖怪たちが捕虜にされた時、油すましが妖怪将棋で「王」を封じ込めてしまったことがある。妖怪仲間の中では、目玉親父と同じくらい博学で、その知識で鬼太郎は度々ピンチを救われている。



油すまし


ははははは
チャンチャンコも リモコンげたも もっていない 鬼太郎なんて われわれの 小指で じゅうぶんだ！
ものども 思うぞんぶん うらみを はらすが よいぞっ

鬼太郎の生活の秘密



ゲゲゲの森はどこにあるのか？

鬼太郎と目玉親父や仲間の妖怪たちが住むゲゲゲの森は、どこにあるのだろうか？
ゲゲゲの森は実は二ヶ所ある。ひとつは、人跡未踏の山奥である。どこにあるのかは鬼太郎と仲間の妖怪たちだけしか知らない。ここには鬼太郎の別荘があり、時々、子なきじじいと将棋をしたり、正月には、親父と雑煮を作ってよく食べたりする。
しかし、人間が便利な生活を求めるために山奥にダムを作ったり、どんどん森林を伐採するので、この山奥も人跡未踏ではなくなってしまった。そこで鬼太郎たちは、もう一ヶ所、人間の知らない場所にもうひとつのゲゲゲの森を作ったのだ。
そこは人間には隠れ里と呼ばれ、誰も足を踏み入れることはできない別天地である。鬼太郎はここに家を持っている。
さて、もし読者がゲゲゲの森に行きたいと思うならば、ゲゲゲホールという秘密の地下道を探さなければならない。この地下道は普段、大きな石でふさがれている。その石を除けると秘密の地下道が現れ、そこを通っていけばゲゲゲの森にたどり着くことができる。



「電気妖怪」

鬼太郎の家はどうなっているのか?

鬼太郎は、第一と第二のゲゲゲの森にそれぞれ家を持っている。ここでは第一の森にある二つの家を見てみよう。ひとつは、巨木の切り株をベッドと風呂に改造したもので、もうひとつは、巨木の中に穴を開けた第二の別荘である。ここでは、目玉親父との二人暮らしだ。

部屋の中でひときわ目立つのがテレビである。だがこのテレビでは人間世界の番組は放送されていない。なぜだろうか。このテレビは、霊波によって受像される特殊なテレビで、この世とは別の世界、霊界の出来事が放送されている。事件のない時に鬼太郎は、うるさいコマーシャルのないこのテレビを見るのがなによりの楽しみだ。

鬼太郎の普段寝ている蒲団は、地獄に生えている電木という木の葉を集めて出来ている。冬はあたたかいし、夏は涼しく快適だ。もしも、鬼太郎以外のものがこの蒲団に手を触れると、しびれてしまうといわれている。

家の照明だが、ゲゲゲの森には電気は勿論、ガスも来ていない。鬼太郎はつるべ火という妖怪を雇っている。給料は一ヶ月にパン一切れで、冬はストーブの代用になり、夏はほたるのような明か

りで辺りを照らしてくれる。
ところで、この家の外側だが、周りには、髪の毛草という草が生えている。もしも、泥棒が鬼太郎の家に侵入しようものなら、この髪の毛草が侵入者の足にからみつき、鬼太郎が家の中に飼っている虫たちに危険を知らせるようになっている。
又、この虫たちは、普段心地よい音楽を部屋に響かせ、鬼太郎の戦いで疲れた心をやわらいでくれるのだ。



「磯女」

妖怪ポストに入れられた手紙はどうやって鬼太郎の手元に届くのか？

さて、鬼太郎はいつもそんなにのんびりばかりはしていない。目玉親父から、悪い妖怪に悩まされている人間を救うのが使命だといわれている。だからこそ、ひとつでも多くの事件を解決したいと、妖怪ポストを作ったからだ。

妖怪ポストは、初めは「霊界ポスト」と呼ばれていた。初めて使われたのは、妖怪見上げ入道と対決した時だ。少年忠助が行方不明になり、友人の金太が茂林寺の裏の霊界ポストに手紙を入れたのが始まりだ。

九谷村の峠に妖怪ぶるぶるが現れた事件で、村の古老が鬼太郎に依頼の手紙を書き、それを森の中のポストに投函してから妖怪ポストという呼び名で、鬼太郎を呼ぶ手段として広く知られるようになっていった。

さて、妖怪ポストに入れられた手紙はどうやって鬼太郎の元に届くのだろうか？　いつもは鬼太郎自身で取りに廻っていた。だが、離れた場所や家にいない時、取りに行くのを忘れたこともある。

そういう時は、どうやって手紙を知るのか？

電気妖怪かみなりが現れた事件の時、鬼太郎はゲゲゲの森の家で、子泣きじじいと将棋に夢中になっていて妖怪ポストのことを忘れていた。その時、一匹のてんとう虫が知らせに来てくれた。

又、こんなこともあった。むじなにお年玉を取られた子供達が、妖怪ポストに手紙を入れたところ、やもりが鬼太郎の別荘まで行き、事件を知らせている。このように、虫たちがポストで手紙を読み、事件を鬼太郎に知らせるのだ。

妖怪ポストといえば、ねずみ男には、事件が金儲けになることを期待して、しょっちゅう妖怪ポストをのぞいては、鬼太郎よりも先に手紙を読む悪い癖がある。金儲けのネタになりそうだと思うと、なん



「ボクは新入生」

とか鬼太郎を騙して儲けを独り占めしようと、

「日本に妖怪がはびこってこまるよ、むふふふふ、おまえは、いまや妖怪清掃係として日本の必需品だからな」などと言いながら、鬼太郎に近づいてくる。だから油断も隙もない。最近になって、霊界にある郵便局の配達夫が手紙を届けてくれるようになったので、これで鬼太郎も一安心だ。



一本足の傘が鬼太郎の移動手段だって？

鬼太郎は、妖怪ポストで事件を知った後、どうやってその場所まで行くのだろうか。その移動手段はなんなのか？

彼は、自力では空を飛ぶことが出来ない。そんな時には、仲間の妖怪「一反木綿」に乗って出動する。「一反木綿」は、鬼太郎が最も多用した移動手段だ。現場にも急行で駆けつけることが出来るし、戦いになった時には、鬼太郎の強い味方ともなる。

空を飛ぶ仲間には他に「カサやん」がいる。「カサやん」は、一本足の傘のお化けで、傘の部分を回転させてヘリコプターのように空を飛ぶ。「一反





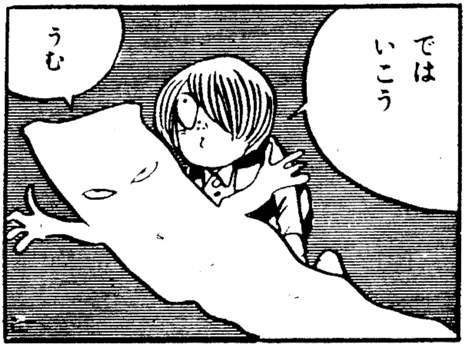
木綿」ほどスピードは早くはないが、沢山いるので、複数の仲間が、しかも別々に行動しなければならない時には、とても重宝だ。

「人工雨研究所」の雨山博士が電気妖怪「かみなり」にさらわれた時、てんとう虫からの通報を受けた鬼太郎は、子泣きじじいと一緒に、「カサやん」をヘリコプターかわりに使って現場に急行した。博士を救出したが、鬼太郎は「かみなり」が背中の太鼓の中に隠していた蓄電池の熱で焼き殺されそうになった。この時鬼太郎は、その熱を電池が空になるまで吸い取り、逆に「かみなり」を焼き殺したのだ。

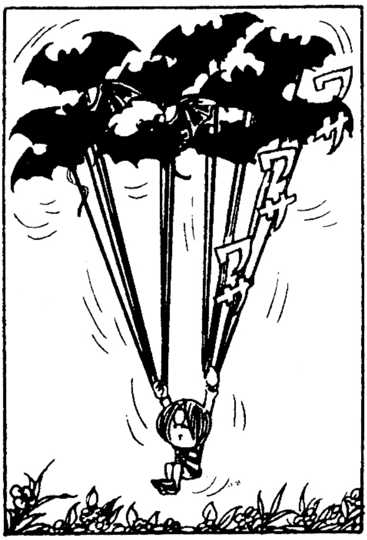
又、特に急ぐ必要のない場合、鬼太郎は「鳥のヘリコプター」をよく利用する。沢山の鳥に紐をつないで、その紐にブランコのようにつかまって、ヘリコプターのように飛ぶ。鬼太郎が、大海獣にされた時、元通りにしてくれた山田秀一をカラスのヘリコプターに乗せてやったことがある。山田は、天才少年科学者でも、さすがにこのヘリコプターには驚いていたが、鬼太郎が「蝙蝠のヘリコプター」に乗っているのを見たら、きっと腰を抜かしていただろう。③

海で釣りをしていた少年が妖怪「磯女」にさらわれた時、鬼太郎は、「蝙蝠のヘリコプター」で「磯女」の現れる海岸に直行したことがある。

これが鬼太郎の移動手段だ



一反もめんに乗せてもらう



こうもりたちが
協力



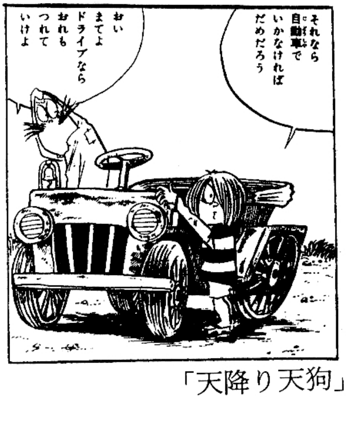
からすなど、動物や虫は
鬼太郎の友達である。

妖怪ラリーで鬼太郎が優勝したって本当か？

鬼太郎は「妖怪カー」という自家用車を何台か持っている。運転免許証はいらない。普段はゲゲの森や、深夜の町をドライブしたりするが、型はかなり古い。妖怪モウリョウに墓を荒された事件の時には、鬼火がヘッドライトになっている車を使った。

佐渡ケ島で世界中の妖怪が集まる「妖怪ラリー」が開かれたことがある。アメリカの代表が例の巨大な目玉から催眠パワーを出すバック・ベアード、ドイツの代表がフランケン・シュタイン、フランスが魔女、ソ連がグレムリン、中国が水虎、そして日本代表の我らが鬼太郎だ。この時に鬼太郎はベアードの眼力で車を炎上させられてしまうが、火だるまになったままゴール寸前でグレムリンを追い抜き、ついに優勝の栄冠を勝ち取るのだ。

風人峠を通る車を襲う妖怪「雨ふり天狗」を誘い出すために、囮に使ったボロ車は、妖怪ラリーに参加した時の車よりもオンボロだった。



「天降り天狗」

「雨ふり天狗」は、かすみを食べて生きている妖怪だが、風人峠にアスファルト道路が出来たために、自動車の排気ガス公害に腹をたて、人間の車を襲っていたのだ。鬼太郎は、村長と相談して、排気ガスに汚されていない山奥に妖怪保護区を作ってもらい、天狗にはそこに移ってもらうことで一件落着した。



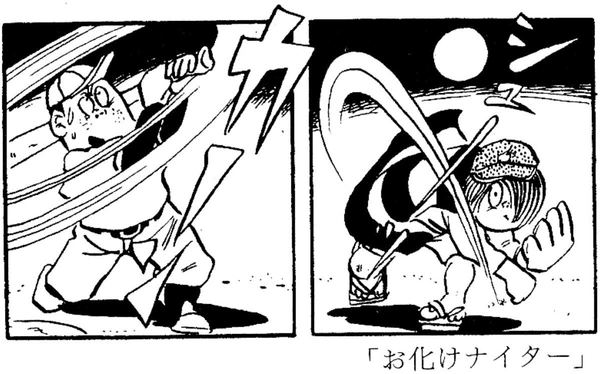
「妖怪ラリー」

鬼太郎が妖怪たちとチームを作り、野球の試合をしたというのは本当か？

鬼太郎の趣味のひとつは野球である。妖怪たちとチームを組んで、人間の子供たちのチームとナイター試合をしたことがある。

そもそもなぜそんなことになったのかといえば、鬼太郎が墓場に自分の魔法のバットを忘れてきたことによる。このバットは、ホームランを打ちたいと念じると、ホームランが、ゴロを打ちたいと念じるとゴロが、思いのままに打てる天下無敵のバットなのだ。ところが、それを少年に拾われてしまい、返してくれないもので、結局少年のチームと試合をすることになった。負けたらバットを渡す条件である。

鬼太郎はピッチャーをつとめ、絶対にバットに当たらないボールを投げて、結局六対ゼロでお化けチームは圧倒的勝利で試合を進める。少年たちはもし、負けたら全員あの世行きという約束だ。しかし、幸

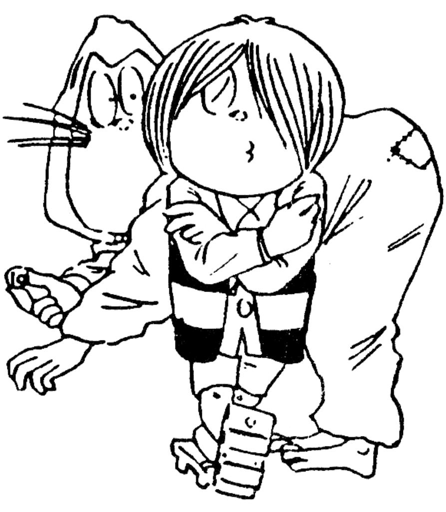


「お化けナイター」

いというべきか、試合は九回表で朝になってしまい、太陽に弱い妖怪選手たちは次々と試合を放棄して逃げだしてしまう。こうして、結局試合は中止となり、少年たちはバットを鬼太郎に返して、命からがら逃げ帰るのだ。



鬼太郎の放浪の秘密



鬼太郎はゲゲゲの森に住み着くまでに、何度引っ越しをしたのか？

鬼太郎がゲゲゲの森に住みつくまでには、長い放浪遍歴がある。

すでに「鬼太郎の誕生の秘密」で紹介したように、鬼太郎は六才の頃まで最初の発見者の血液銀行の社員、水木の家に住んでいたが、水木は、生きながら地獄へ行ってしまい、その水木を探す母親も狂人になってしまう。このいきさつについては後に項を改めて述べる。

水木家が空き家になったので、鬼太郎たちは水木家に住んでいた。ところが家賃が払えず、突然現れた怪紳士に追い出され、放浪の旅に出る。

その後、鬼太郎の恩情で地獄から生還した水木と、東京谷中の初音町にある下宿屋「ねこや」の二階に住んでいたが、家賃が上がり、水木の収入だけではとても生活出来なくなった。そこで鬼太郎はアルバイトで「妖怪の借金の取り立て役を引き受け、水の妖怪水神様と物の怪から借金を取り立てようとするが、そのために水神様を怒らせてしまい、「ねこや」は水に流されてしまう。

水神様に襲われた鬼太郎は、ねずみ男に助けられるが、ねずみ男に助ける条件として、一生奴隷

として働く約束をさせられる。目玉親父をひょうたんの中に入れられ人質にとられていたため鬼太郎は、しばらくねずみ男のアパート風来荘十三号室に居候していたが、やがて親父は脱出し、鬼太郎は持ち前の超能力で、ねずみ男との立場を逆転させてしまう。

それから鬼太郎は、孤独な霊の話相手になるために無断で金田という殺し屋の家に居候したり、放浪の途中で、所有者不明のみすぼらしい小屋を調布の布田天神の裏手に見つけたので、「怪奇事件専門解決」という看板を掲げ、霊界探偵のような仕事をしていたこともある。「おかしな奴」事件を解決したのもこの頃である。しかしその後、高速道路建設のため、この家から立ち退かされる。

それからしばらく放浪の旅が続き、ねずみ男と一緒に、調布の喫茶店で偶然、漫画家の「水木しげる」と出会う。水木しげるは、空想と実在が一致したと感激したので、鬼太郎は彼の家の物置に居候させてもらうことになった。

しかし、水木の家はあまりに騒々しかったので、すぐに出て、鯨神事件というのを解決した後、ねずみ男と一緒に京都の旅へ出る。

旅から帰った鬼太郎は、山奥の沼に囲まれた小さな孤島に家を建てた。巨木を改造して作った家だったが、その後すぐに又、高速道路が通るというので、立ち退かされてしまう。仕方なく鬼太郎

は再び放浪の旅を始め、旅の途中でボロの長屋を借りて住んでいた。「吸血木」事件を解決した頃だ。

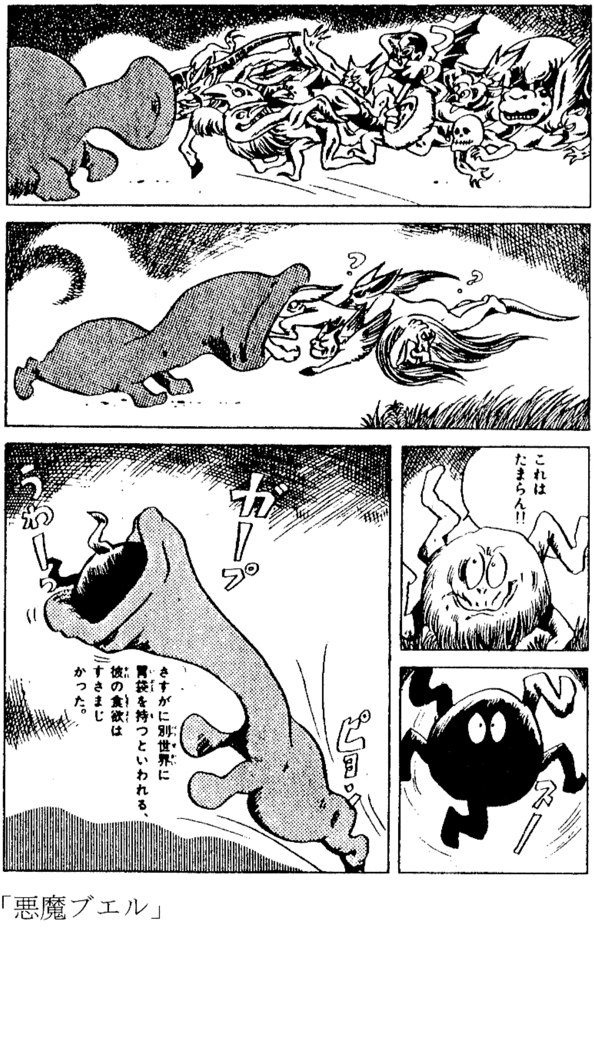
それからしばらく神社のお堂で寝泊まりしたり、何度かの引っ越しを繰り返し、仲間たちも増えてきたので、人跡未踏の地に、第一のゲゲゲの森を造ることにしたのだ。

このゲゲゲの森に引っ越すまでに鬼太郎は、合計八回以上の引っ越しをしたことになる。しかし、ゲゲゲの森さえ鬼太郎にとっては、のんびりと朝寝、昼寝が出来る所ではない。そこは、悪い妖怪たちと戦った疲れをいやす、一時の安らぎの場所にすぎないのだ。

この後、鬼太郎は戦いの疲れが出たのか、ゲゲゲの森で一年半も寝ていた。それからねずみ男の南方の島に旅行しないか？　との誘いに乗って旅行し、島の初代酋長になって、しばらく平和に暮らしていた。しかし、悪い妖怪たちが再び活動を始めたので、再び日本へ帰ることになったのだ。

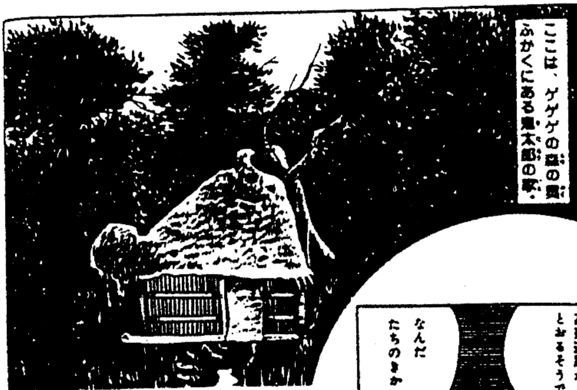
日本へ帰った鬼太郎は、砂かけばばあの妖怪アパートに同居するが、そのうち悪魔ブエルが五十個悪魔軍団を引き連れて、襲ってきたので、鬼太郎は、天の岩戸が閉まって以来絶対に出してはならぬといわれていた妖怪ヤカンズルを呼び出す。ヤカンズルは何でも呑み込む妖怪で、悪魔軍団を呑み込むが、ついでにバスや人間たちまで呑み込み始めたので、鬼太郎はヤカンズルを呼び出した

責任を取り、親父と身代わりに呑み込まれることになった。
このヤカンズルの体内から脱出するのに何年かかったのか、鬼太郎自身覚えていない。



「悪魔ブエル」

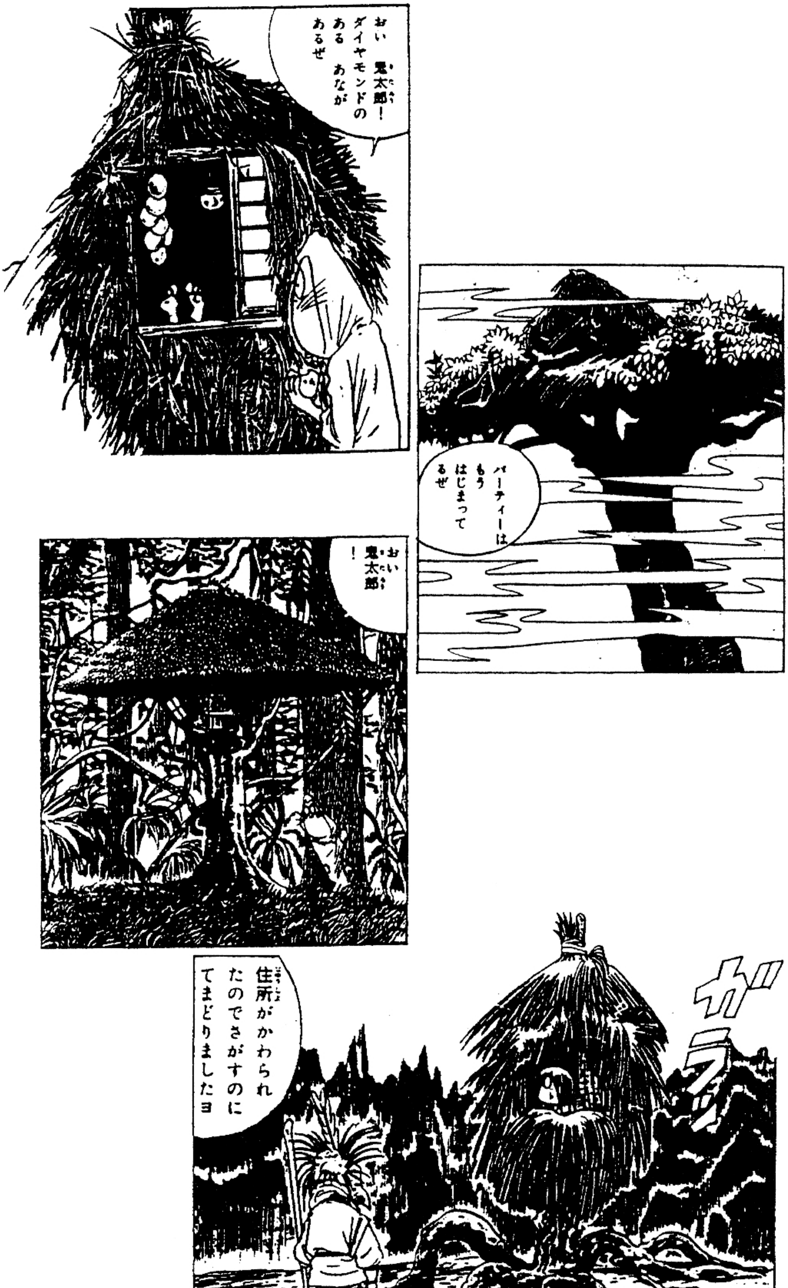
鬼太郎はこんな家に住んでいた











おい 鬼太郎！
ダイヤモンドの
ある あながある
あるぜ
パーティーは
もう
はじまって
るぜ
おい
鬼太郎
！
ガラ
住所がかわられ
たのでさがすのに
てまどりましたヨ

ニセ鬼太郎がいるというのは本当か？

鬼太郎ほどの有名人になると、当然の宿命としてニセモノも出てくる。

鬼太郎の最初のニセモノは、鬼太郎と顔形がそっくりの少年だった。このニセモノは、ねずみ男と企んで鬼太郎からちゃんちゃんこを奪い、更に鬼太郎の初恋の相手、寝子さんの命を奪って本物の鬼太郎になりすまそうとするが、結局、水神様に溶かされて死んでしまう。

又、妖怪たちが、ニセモノの鬼太郎になりすましたこともある。妖怪さざえ鬼が、鬼太郎の神通力を欲しがり、食べようとしたことがある。さざえ鬼は、三百年間生きたさざえが、細胞変化を起こしたもので、さざえ鬼は、鬼太郎を招き寄せるために、ニセの鬼太郎になり、人魚の子供を売って歩いていた。お陰で鬼太郎は信用を失う。



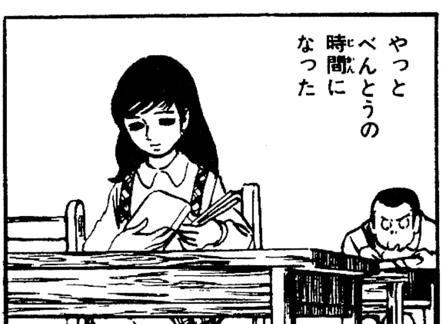
「鬼太郎夜話」

鬼太郎はどんな恋愛遍歴をしてきたのか?

忘れもしない、鬼太郎が初めて恋をした女性は、水木と一緒に住んでいた東京谷中初音町にある下宿屋「ねこや」のおばあさんの孫娘、寝子である。

鬼太郎は、寝子さんに憧れて小学校に通い出す。一年三組だった。しかし、弁当にどぶねずみを持っていったばかりに、寝子さんの正体が、ねずみや魚を見ると猫になってしまう「猫娘」だということが分かってしまう。

悲観して学校にもう行けないという寝子さんは特技が歌だというので、責任を感じた鬼太郎は人気歌手三島由美男に紹介するが、三島の代わりのステージで歌うや、その天才的な猫なで声で人々を魅了し、たちまちのうちに人気歌手となるのだった。しかし、ねずみ男の策略でニセモノの鬼太郎がねずみを放ったので、観客の前で猫である正体を見せてしまい、絶望して自殺してしまう。鬼太郎がフィアンセと決めていた女性で、後追い自殺を考えるほど鬼太郎は寝子さんのことが



寝子

好きだった。それでは以下、鬼太郎の恋愛遍歴を列記してみよう。

カロリーヌ

フランスから来たガモツ博士の娘、カロリーヌは、ソルボンヌ大学出の才女だった。だが彼女と交際することを目玉親父に猛烈に反対される。

「お前は世界に一種族しかない幽霊族の最後の子孫のひとりだということを忘れてはしないか。ガモツの娘なぞと一緒になって純粋なわれわれの血を汚しては祖先にもうしわけない。わしゃァ、風呂桶の中に飛び込んで自殺するヨ」と。

この時はねずみ男もカロリーヌに気があって、とんだ恋敵になる。ねずみ男も人並に恋をするらしい。それも、何故か鬼太郎と女性の好みが似ているのだ。

しかし、この鬼太郎の恋も、ガモツ博士の持つ妖気放出装置を



カロリーヌ



山田敬子

操作して、ブリガドーン現象（巨大な雲が現れて、調布市を中心に覆ってしまう）事件を解決したのと同時に終わった。

山田敬子

山田敬子は、少年天才科学者山田秀一の妹だった。この時、鬼太郎は、敬子の兄の秀一によって血を注射され、鯨のような大海獣にされてしまう。そんな鬼太郎をかばい、兄を非難する敬子の姿には恋する乙女のその姿がありありと。鬼太郎よりもむしろ、敬子の方に気があったというべきであろう。いずれにしても、鬼太郎はこの時、人間たちが大海獣とは知らずに退治しようと巨大なロボットまで作り、大決戦になったために、鬼太郎はその戦いで敬子のことなど考える余裕はなかったのだ。



猫娘

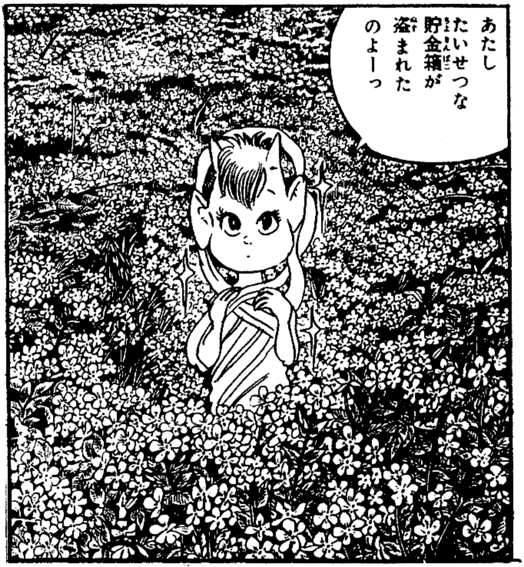
猫娘

調布の中華そば屋の横の神社に棲んでいる。ねずみや魚を見ると生理的に猫になるのは、寝子さ

んと同じである。ねずみ男が「長寿教」という怪しげな新興宗教でボロ儲けをしているのを懲らしめるために、鬼太郎はこの猫娘の力を借りたことがある。鬼太郎とはただの友達だ。
しかし、猫娘の同類に「猫子」というのがいる。砂かけばばあの妖怪アパートに棲んでいるが、彼女の方が鬼太郎に熱を上げているようだ。

妖精花子

花子は気位の高い妖精で、日頃鬼太郎たち妖怪を軽蔑していて口も聞いたことがない。それが、妖怪丸毛に貯金箱を奪われたというので、ゲゲゲの森で静養中の鬼太郎に助けを求めてきたことがある。鬼太郎は張り切るがねずみ男とこれまた恋敵になる。ところが丸毛は妖怪逆柱に利用されていただけだと分かり、事件が終わって肝心の花子の貯金箱を返してもらおうとすると、すでに返された後だった、と



妖精花子

いう実りのない結末となる。以後、花子は鬼太郎の前に現れないので、よほど気位が高いのだろう。

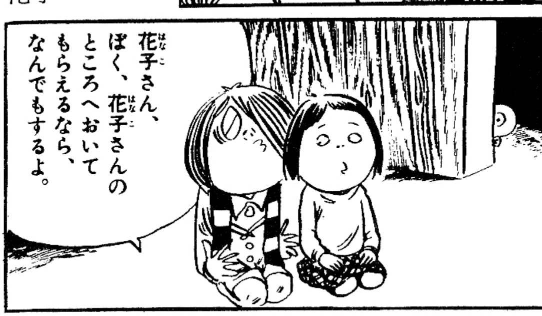
花子といえば、妖怪白山坊の嫁にさせられそうになった少女の名前も橋本花子だった。年は十六、「僕、女の人に頼まれると勇気が湧くたちですから」と、鼻の下を伸ばす鬼太郎だった。

又、別に花子という少女も登場したことがある。この時は、鬼太郎は、妖怪いやみの武器、イロ気妖気を吸い込み自分の意志とは関係なく、花子を好きにさせられる。この時も、又、ねずみ男が「鬼太郎、おれあ、ほかのことではお前にゆずるが、こと恋に関してはゆずらないぜ」と見得を切り、再び恋敵となる。

他にテレビのアニメで鬼太郎のガールフレンドとして登場する天童夢子がいる。しかしテレビでは有名な彼女も、漫画にはわずかしか登場しない人間の女の子である。さて、鬼太郎は以上のよう

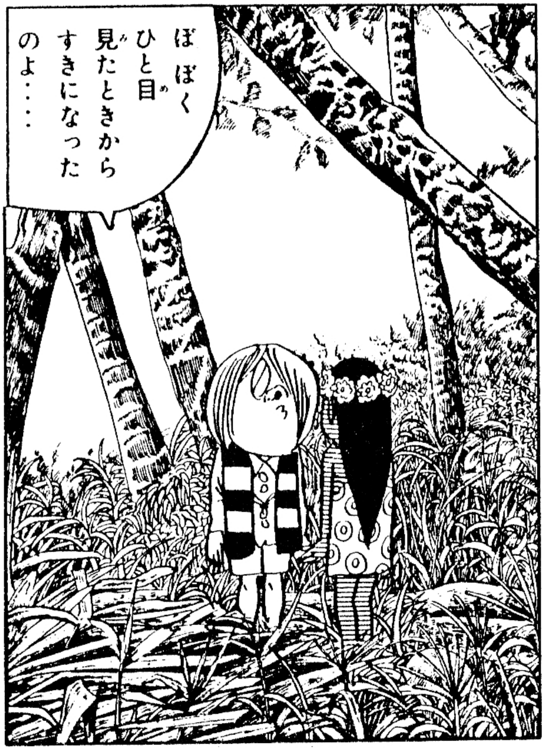


橋本花子



花子

な女性遍歴してきたが、初恋の人寝子さんと手を握って顔を赤くしたくらいで、いずれの女性ともキスひとつしていない。というのは嘘である。ひとりだけ肝心の女性を忘れていた。メリーである。



「その後のゲゲゲの鬼太郎」

鬼太郎の性行為はどこまで進んでいるのか？

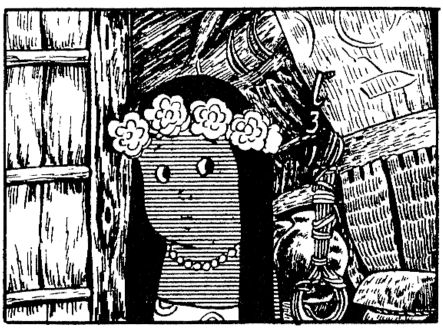
メリーは、鬼太郎が南方の島で出会った原住民の酋長の娘だ。鬼太郎は彼女とはキッスもし、どさくさに紛れて、最後までやったらしいのだ。

それはこの島の掟で死刑になった鬼太郎が、メリーの出産で復活したことが明らかな証拠である。

この島では島人以外の人間とセックスした者は死刑にされる。なぜならば、この島では死人は死後の霊魂となり、「死の島」という死んだものだけが幸福に暮らす場所に送られ、再び島に戻りたいと思った時、島の妊娠した女性の胎内で転生出来るのだ。つまり外部の人間とセックスをすれば、その島の輪廻転生に支障が生じるため、島人以外とのセックスを禁じているのだ。ところが、鬼太郎は情熱的なメリーと熱いキスをしているところを、性保安官のねずみ男に目撃され、島の死刑を宣言される。そして鬼太郎は、死の島に送られ、メリーの胎内から復活するのだが、鬼太郎はあらかじめ、こうなることを予期してメリーの胎内に自分の分子を宿していたのだ。さて、その方法は、「鬼太郎っ、わしはちょっと疑問に思うんだけれど……おめえメリーちゃんと…」「お父さんなにも聞かないで下さい」と言う訳である。

鬼太郎の恋愛遍歴のついでに、ねずみ男を恋の病におちいらせた女性に「ガマ令嬢」というのがいた。鬼太郎がねずみ男の召使として風来荘十三号室に居候していた頃に、隣りの部屋に越してきた。口にチャックがついていて気味の悪い女性だったが、ねずみ男は、そのチャックの閉まる音に、結婚を決意するほど魅力を感じたようだ。

「僕かァ今まで恋を罵り軽蔑していた。だが僕の天使は僕の高慢な鼻をへし折ったのだ。恋の神に仕えるほど大きな喜びはこの世にない」と、ねずみ男に告白させたそのガマ令嬢も、鬼太郎の忠告で風来荘を去り、どこかへ行ってしまった。



メリー



ガマ令嬢

鬼太郎の戦いの秘密



鬼太郎は事件でどんな処へ出張したのか?

鬼太郎は、夜叉と戦って以来、数多くの奇怪な事件や妖怪と遭遇してきた。事件はいつも身の周りで起こるとは限らない。妖怪には国境はない。妖怪に悩まされている人間がいれば、外国へも出張しなければならない。

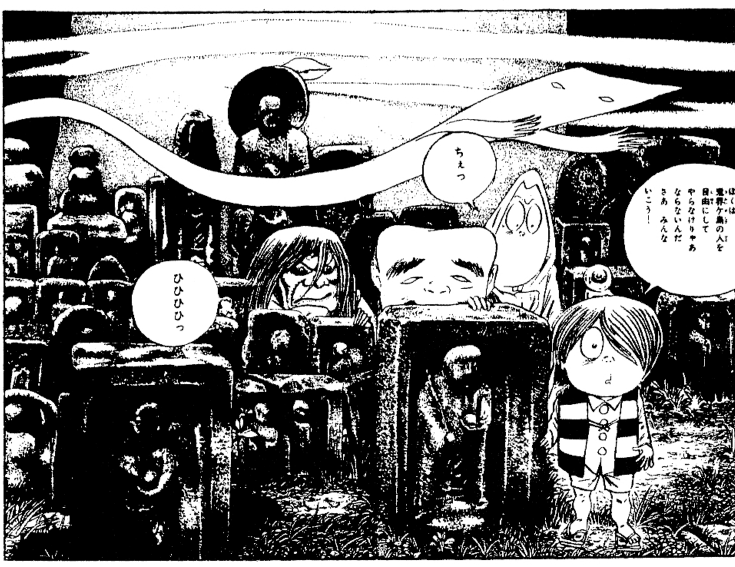
鬼太郎の事件簿では、最初の出張先は沖縄の鬼界ヶ島となっている。「鬼太郎の仲間の妖怪たち」の項で、すでに紹介したように、西洋の妖怪王、バックベアードに率いられた凶悪な西洋妖怪軍団と対決するために、鬼太郎は新聞で日本の妖怪を募集し、子なきじじいや砂かけばばあ、一反木綿を採用して鬼界ヶ島に向かったのだ。

又、三億年間生きていた幻の大海獣の秘密を探るために、探険隊の一員になってニューギニアに出かけたり、お隣りの韓国にもぬりかべを連れて行ったことがある。ニューギニアの事件は「幽霊族はなぜ絶滅したのか?」の項で紹介したが、韓国では少年がいきなり老人になってしまう事件で、真相は妖怪ぬっぺらぼうが人の若さのエキスを吸っていた。お陰で鬼太郎も、若さのエキスを吸われて老化してしまい、さんざんな目にあった。

妖怪に悩まされていた山田花子の依頼では南の島に行った。この時には、大きなハマグリの船を用意し、鬼太郎の友人、かわうそが船長で、船には長旅が出来るように小さな家もついていた。謎の村人凍死事件では凍死妖怪雪ん子を退治しに、冬の北海道の大雪山に出かけたこともある。

やがて全国に名前が知られるようになり、正義の味方として重大な使命を自覚した鬼太郎は、日本ばかりではなく世界の妖怪を退治しようと、ねずみ男と電柱の廃材でイカダを作り世界旅行をしたこともある。

モンゴルでは砂妖怪エキセル、コーカサスでは魔女、ギリシャでは吸血鬼、ルーマニアでは蛇人ゴーゴンに狼男、ローマでは再び狼男やドラキュラ、フ

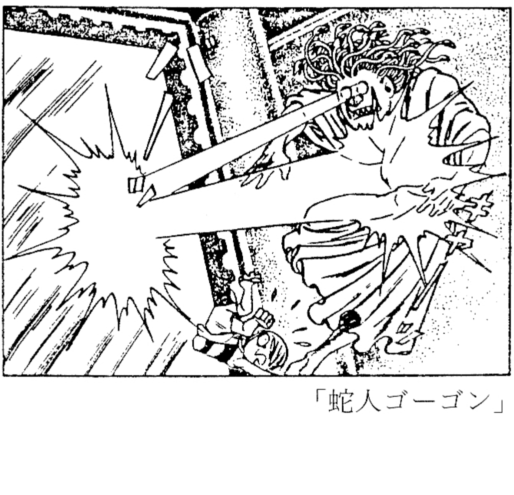


「妖怪大戦争」

ランスでは蠟人形妖怪カーリ、フランスではベルサイユ宮殿に現れる化け猫、エジプトでは妖怪セト、イギリスでは、あの宿敵バックベアード、アフリカではブードー教の神とも対決している。いずれも目玉親父や仲間の妖怪たちの助けで、勝利をおさめ、かくして鬼太郎は日本ばかりではなく世界の妖怪からも最も恐れられる存在となったのだ。



「吸血鬼」



「蛇人ゴーゴン」

鬼太郎の強敵、妖怪大統領と妖怪総大将とは何か？

鬼太郎は、妖怪大統領や妖怪総大将とも戦ったことがある。

妖怪大統領とは、「こうもりねこ」のことである。こうもりねこは、鬼太郎と対決する一年前、アメリカの妖怪大統領に破れ、日本に亡命してきた。アメリカの妖怪大統領は、バックベアードらしい。こうもりねこは、アメリカで大統領になれなかったので、日本の妖怪大統領になろうとして、三途の川に住む葬頭河婆という妖怪と手を組んで鬼太郎親子を殺そうと企てたのだ。

妖怪大統領になりたいと考えたのは、こうもりねこだけではない。人間の生息を吸い取り、猫魈（ねこしょう）、となった猫又も又、妖怪大統領になろうとして、邪魔な鬼太郎を殺そうとした。猫又とは、猫は普通、七、八年で死ぬのだが、二十年以上生きているのは稀で、四、五〇年生きていると、猫又という妖怪になるらしい。その猫又が更に修業を積んで大妖怪となったのが、猫魈である。猫科の妖怪は妖怪大統領になりたがる習性があるようだ。

さて、妖怪総大将とは、日本の妖怪世界の首領（ドン）といわれる、あの「ぬらりひょん」であ

る。ぬらりひょんは人間の老人になりすまして高級マンションに住んでいる。人間嫌いで、町にダイナマイトを仕掛けたり、人間に悪事をすることを無上の喜びとしている。鬼太郎がいたのでは安心して悪事を楽しめないので、蛇骨ばばあ、と手を組んで、鬼太郎を魔法の壺の中に閉じ込めようとしたことがある。



ぬらりひょん



こうもりねこ



バックベアード

鬼太郎が妖怪総大将に勝った霊力「先祖流し」とは何か？

鬼太郎は、ぬらりひょんを先祖流しという霊力にかけ、二億年過去の世界へ追放した。鬼太郎に、そんな能力があるのか？　その秘密は、鬼太郎の家にある古代の石臼にある。

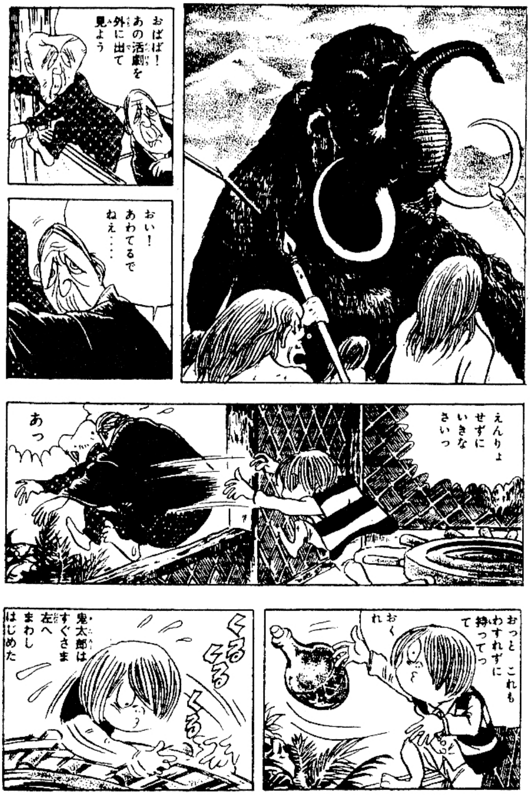
鬼太郎が霊力で、この石臼をぐるぐる回すと、外の景色がまるで映画を見ているように古代から未来まで自在に変化する。いわばタイム・マシンに似たパワーを持っている。

ぬらりひょんと蛇骨婆は、魔法の壺に甘酒を入れ、鬼太郎がよっぱらって壺に指を入れたらフタを閉め、壺の中に封じ込める作戦を立てたが、鬼太郎はその策略を見抜き、石臼をぐるぐる回す。と、突然周りの景色がマンモスのいた時代に変わり、鬼太郎はぬらりひょんを二億年前の世界に放り出し、置き去りにしてきたのだ。



古代の石臼

だが、ぬらりひょんは、二億年生き続けるくらい朝飯前、さすが妖怪総大将のことはある。二億年の間に邪悪なエネルギーを吸収して、再度鬼太郎に挑戦してきたのだ。無論鬼太郎は、捨て身の戦法で退治したが、いつか又生き返ってくるかもしれない。油断は出来ない相手である。



「ぬらりひょん」

鬼太郎の受けた被害情報　人間篇

鬼太郎は、妖怪との数多い戦いの中で様々な被害を受けてきた。敵が手強くなるほど危険はつきものである。では、どんな被害を受けてきたのかを振り返ってみよう。

鬼太郎が最初に被害を受けた相手は妖怪ではない。人間、それも鬼太郎の育ての親ともいうべき、血液銀行の社員水木の母親だった。水木は、鬼太郎が使っていた「地獄の片道切符」を無断で持ちだしたので、鬼太郎は水木を生きながら地獄に送った。その母親が鬼太郎を恨んで、いきなり後ろから谷底に突き落としたのだ。母親はこの報いを受け、その後、狂人になっている。この水木と母親については、次の章「鬼太郎と地獄の秘密」に詳しい。



「地獄の片道切符」

人間といえば、金田という殺し屋から冷蔵庫に閉じ込められた上、手首を切り落とされたことがある。この時は、手首を遠隔操作させ、冷蔵庫から脱出したが、ただ金田の家の地下に住みついている孤独な霊を慰めようとしただけなのに、あまりに酷いことをするので、鬼太郎は金田をあの世

におくったのだ。鬼太郎にとって、人間は時として妖怪よりも恨みが強く、嫉妬深い存在である。
　少年天才科学者山田秀一もそのひとりだ。鬼太郎は、ニューギニアのジャングルで探険家の隊長から大海獣の血を受け取り、日本に持ち帰ろうとするが、名誉を独り占めしたかった山田は、サラマンドラの粉で鬼太郎の霊力を封じ、そればかりか鬼太郎の体に大海獣の血液を注射したのだ。そのために鬼太郎の体は、大海獣にされてしまった。



「大海獣」

鬼太郎の受けた被害情報　妖怪篇

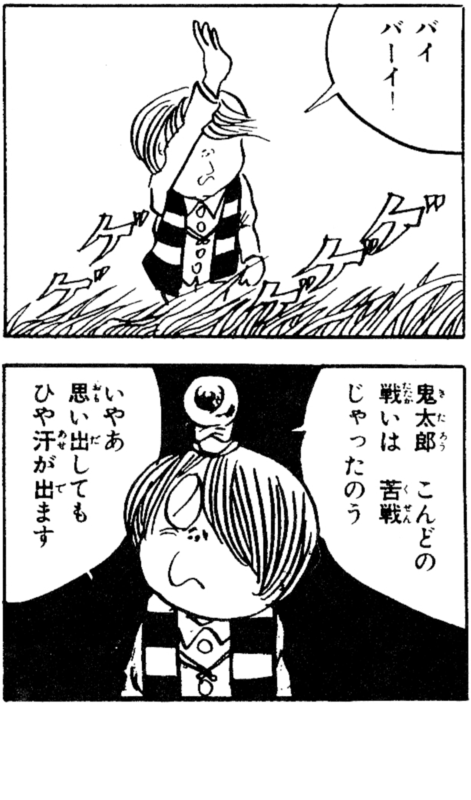
鬼太郎の敵の妖怪も様々な妖力で挑戦してくる。時には、鬼太郎の体そのものを変化させたり、たましいを抜く妖怪もいる。先に紹介したように、鬼太郎の弱点は、たましいを抜かれると、まったく無力になることだ。夜叉や、貘にたましいを盗まれたことは前に述べたが、では、これまでにその肉体をどんなものに変身、変形させられたのだろうか？

まず、霧の中のジョニー（吸血鬼）から肉体溶解液を注射をされ、溶かされたことがある。どうやってその液体を作ったのかは、分からないが、溶かされたといえば、世界の妖怪退治に出かけた時、ヴォジャノイという妖怪にも体を溶かされた。

又、妖怪のびあがりから、吸血木（血を吸って成長する木）を植えられ、木にされたこともある。しかし、この時鬼太郎は、なんと吸血木に実を作り、そこから復活するのだ。

妖怪牛鬼を退治した時には、牛鬼になり、たんたんぼうという巨大な顔の妖怪には、上から押さえられ、ノシイカのようにペシャンコにされたかと思うと、四国から攻めてきて八百八狸のボス刑部狸にキスをされ、そこから毛が生えてきて狸のようになったこともある。この八百八狸の操る妖

怪なまずには目をつぶされ、天邪鬼には薫製にされたり、妖怪ほうこうには漬物にされたし、半魚人には、蒲鉾にされた。これほど多様なものに体を変形させられたヒーローも、世界に類をみないだろう。

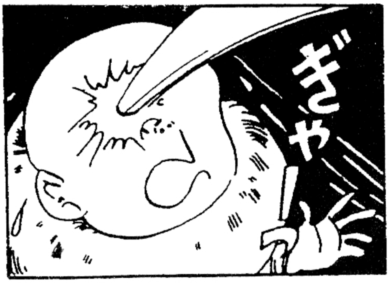


鬼太郎はこんな被害を受けた

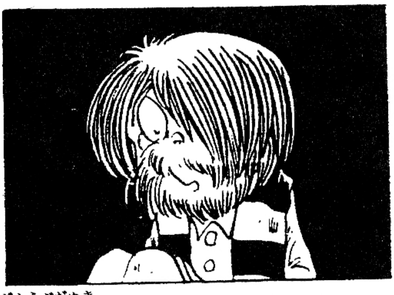
この他、鬼太郎は、かなめ石に触れ、石にされたり、「お化け旅行」の時にも、妖怪水精やエジプトの妖怪に魂を抜かれているが、最悪だったのは、生きながら死の島に流されたことだ。しかし、いずれも、鬼太郎は奇跡の生命力で蘇ってくるのだ。

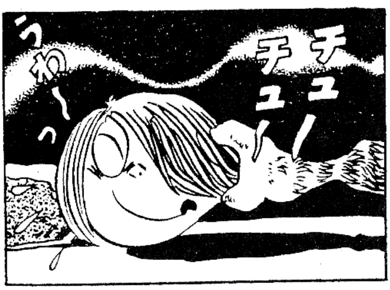


ねずみ男に足げにされる。



妖怪なまずに目玉をつぶされる。


刑部狸(ぎょうぶだぬき)にキスをされ狸の様になる。



土ころびに体を吸われる。





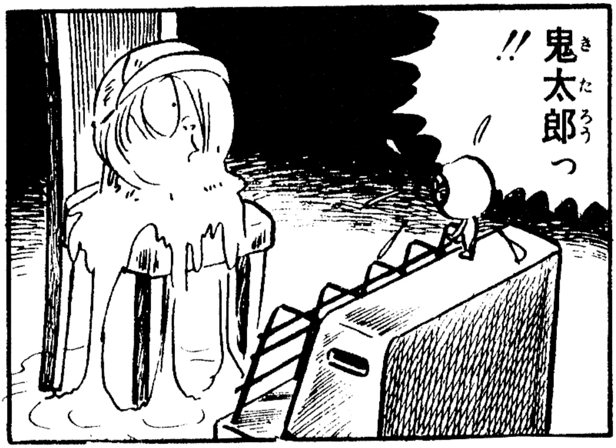


〝のびあがり〞に
吸血木の種を植え
られる。

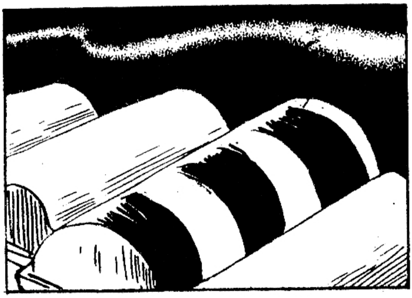


くんせいにされる。

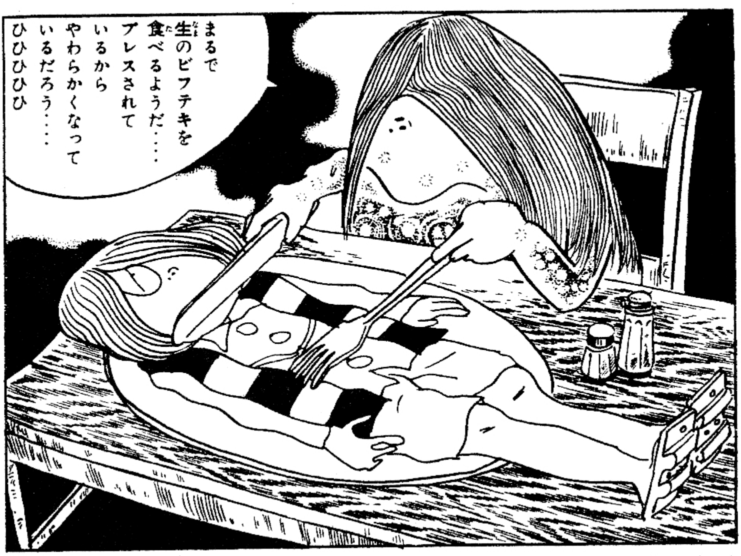
吸血鬼エリートにとかされる



溶けたところを
肉ヨーカンにされる.



半魚人にかまぼこにされる。(「かまぼこ」)



さざえ鬼にプレスされ食べられる。(「さざえ鬼」)

鬼太郎の弱点とは何か？

鬼太郎にも弱点がある。祖先の霊毛で出来たちゃんちゃんこがあるので、大抵の戦いには負けないが、たましいを抜かれてしまうと、敵に対して手も足も出なくなってしまうのだ。

中国から来た妖怪「夜叉」や人の夢を食べる妖怪「獏」との戦いで、鬼太郎はたましいを抜かれたことがある。

「獏」は「夢しばり」という怪しい妖気を口から吐き出す。この妖気を一度吸うと夢があまりにおもしろくて目が覚めないのだ。鬼太郎もこの「夢しばり」をかけられてしまう。獏は鬼太郎が眠っている間に、身体をまゆのように包み、小さな穴を開けて卵から黄味をチュウチュウと吸うように、たましいだけを抜きとってしまう。これを「獏の難魂術」と呼ぶらしい。

この時には、目玉親父がたましいとなって、睡眠中の獏の身体に入り込み、鬼太郎のたましいを救出し、元の身体に戻したので事なきを得た。親父の助けがなかったら、鬼太郎は今頃はこの世に存在していないだろう。

又、鬼太郎は、霊力を封じられると、普通の人間の子供と変わらなくなってしまう。天才少年科

学者山田秀一は、妖怪たちの持っている霊力を研究し、その霊力を無力にする恐ろしい「サラマンドラの粉」を発明した。鬼太郎は、この粉を浴びせられ、霊力を失い、親父や仲間の妖怪たちにSOSを出すことができなかったのだ。

さて、日本にただ一ヶ所、鬼太郎の妖力を封じてしまう特殊な霊的ゾーンがある。北陸山中の某所にある「きのこ谷」といって、昔からお化けの難所ともいわれ、ここの岩は、鬼太郎の髪の妖気アンテナさえ役に立たないほど強力な妖気を吸い込む岩がある。この谷にはコマ妖怪「あまめはぎ」が棲んでいる。「あまめはぎ」は鬼太郎を「きのこ谷」に誘い出し、妖力を封じてやっつけようとしたが、鬼太郎はなんとか、その妖気を吸い取る場所から脱出し、「あまめはぎ」に勝ったのだ。



妖力を封じられる。(「コマ妖怪」)

鬼太郎も負けたことがあるって本当か？

鬼太郎は正義の味方ではあるが、決してスーパーマンではない。強力な相手には苦戦するし、初顔合わせの妖怪と戦った時には何度か負けたこともある。しかし、リターンマッチではほとんど勝っている。ピンチの時に、目玉親父や仲間の妖怪たちが助けてくれたからだ。

だが、たった一度だけ、小豆連合軍と対決した時に敗北している。小豆連合軍というのは、小豆洗い、小豆とぎ、小豆ばばあの三人組で、この時は鬼太郎の顔は小豆畑となり、元に戻る手段がなく、やむを得ず降参した。元々、ねずみ男が裏で糸を引いていて、彼らは騙されただけの悪い妖怪ではないので、鬼太郎は一反木綿を白旗代わりにして小豆連合軍と話し合いをして決着をつけたのだ。

鬼太郎が、妖怪警察に逮捕されたって本当か？

鬼太郎は、ねずみ男と妖怪百々じじいの陰謀で、妖怪パーティの首謀者にさせられたことがある。パーティの場所は、日本一深いと言われている岩手県の鐘乳洞、安家洞の近くの、人間には発見されていない妖怪洞の中だ。

ねずみ男と百々じじいは、鬼太郎の名前で秘かに招待状を配り、日頃鬼太郎に恨みを持つ妖怪たちをこの妖怪洞に集め、それを秘かに映画会社に撮影させた。妖怪世界では、人間の前に秘密をさらすことは最大の罪とされている。そのため鬼太郎は濡れ衣を着せられたまま、妖怪警察に逮捕され、妖怪大裁判にかけられたのだ。

妖怪世界の治安を守るのが妖怪警察で、からす天狗によって組織されている。妖怪同士の自由を束縛したものや、人前に秘密をさらした者は、悪として追放される。その組織の上に、罪を判定する妖怪法廷



「妖怪大裁判」

がある。裁判長は、大天狗である。
日本にほぼ近い奇怪な無人島の地下には刑務所がある。罪を犯した妖怪は、牢獄に何十年、何百年と閉じ込められ、形が残されている者はまだいい方で、ひどい者は、体が溶けても何千年も檻の中に放置される。これを「溶解刑」という。鬼太郎は、白蛇の手錠を掛けられ、五〇〇年の溶解刑を宣告されるが、脱走して、百々じじいを捕まえ、濡れ衣を晴らした。



「妖怪大裁判」

鬼太郎を生き返らせた妖怪の秘薬って何だ？

妖怪や幽霊族にも秘薬がある。妖怪再生粉末は、大抵の妖怪の家には置いてあり、重傷の妖怪でもこれをかけると生き返るといわれている。

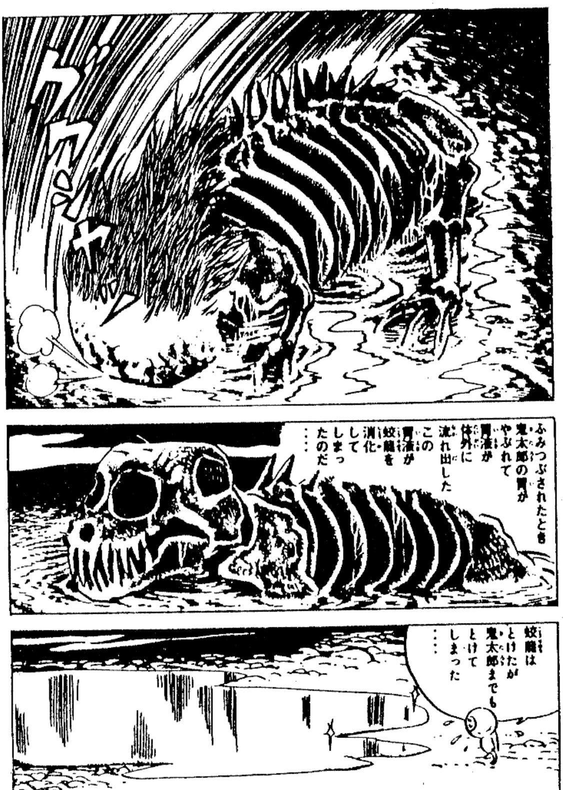
だったら、いくら鬼太郎が悪い妖怪を退治しても、すぐ復活するではないか？ と思われるかもしれないが、安心して欲しい。鬼太郎が、妖怪獣蛟龍との戦いで共に体が溶けたことがある。一反木綿が近くの妖怪の家からこの秘薬を借りてきて、鬼太郎と蛟龍の溶けた液体に振りかけたが、鬼太郎だけがよみがえったのだ。つまり、この秘薬を使っても、生命力が弱い妖怪や幽霊族は復活させることはむずかしいのだ。

薬といえば、かび消し妙薬というのがある。この薬には製法がある。かびが大好物の妖怪天井なめの胃液を一サジに風呂桶一杯の水を混ぜ



「妖怪獣」

れば完成する。



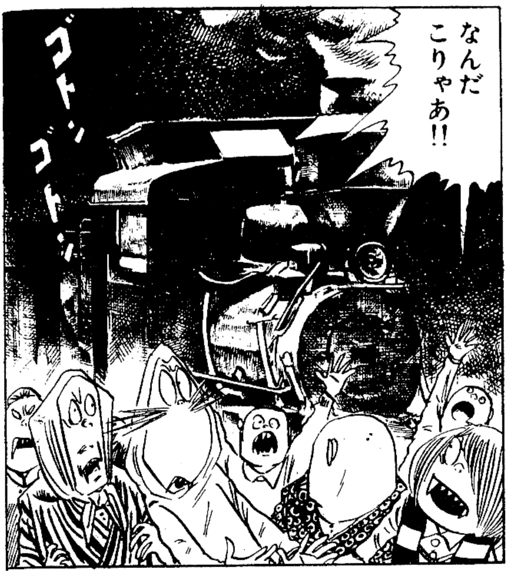
ふみつぶされたとき鬼太郎の胃がやぶれて胃液が体外に流れ出した
この胃液が蛟龍を消化してしまったのだ……
蛟龍はとけたが鬼太郎までもとけてしまった……

「妖怪獣」

鬼太郎の運転した、「まぼろしの汽車」って何だ？

ねずみ男が、吸血鬼ピーの帽子を被ったために、吸血鬼と化したことがある。ピーの帽子は吸血族先祖伝来のもので、これを被った者は血が飲みたくなる。ねずみ男は、ピーとその仲間の吸血鬼モンローの手下になり、生血を求めて村人を襲う。襲われた村人は更に血を求めて新しい吸血鬼となり、いつしか村は吸血鬼開放区となる。

鬼太郎は奇跡的に助かった一部の村人の知らせで事件の解決に乗り出し、吸血鬼除けの鐘つき堂を建てるが、大好物のチョコレートにつられて、鐘の中に閉じ込められ、肉だんごのようにされてしまう。更に吸血鬼モンローに拉致され、とうとう鬼太郎も吸血鬼にされ、仲間の妖怪たちを襲い始めるのだ。万事休す！

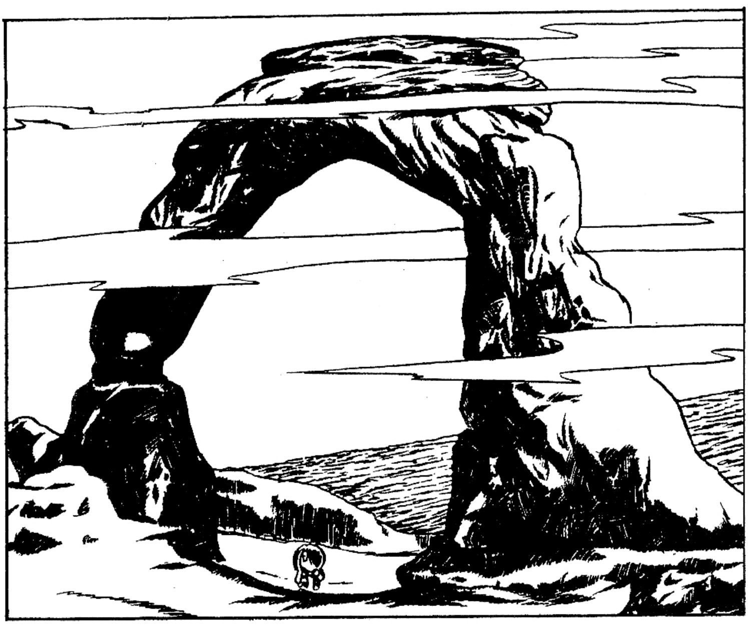


「まぼろしの汽車」

そこで目玉親父は鬼太郎を救うために窮余の一策として、「まぼろしの汽車」を呼び出したのだ。「まぼろしの汽車」というのは、過去の世界に行けるタイムマシンのようなものだ。この汽車で吸血鬼になる前の時間に連れて行かれた鬼太郎は、その運転手となって村人を次々と汽車に乗せ、吸血鬼になる以前の状態に戻したのだ。

だが、目玉親父は事件が解決すると気絶してしまい、一ヶ月は起き上がれなかった。この「まぼろしの汽車」を呼ぶのに、念力を消耗したからだ。目玉親父の吸血鬼にされた子供を思う親の強い念力が、この「まぼろしの汽車」を動かしたのである。

鬼太郎と地獄の秘密



地獄への片道切符があるって本当か？

この世で悪いことをした者は、死ぬと地獄へ落とされる。しかし、死なない人間でも、地獄に行ける方法がひとつある。地獄への片道切符を手に入れることだ。ただし、片道切符なので、行くことは出来ても、帰ってくることは出来ない。

ところが、鬼太郎からこの片道切符を盗んだ人間がいる。鬼太郎の育ての親ともいうべき、あの血液銀行の社員、水木である。

「鬼太郎誕生の秘密」で紹介したように、鬼太郎は六才まで、水木家で育てられる。水木家は母親と水木の二人暮らしだった。だが、鬼太郎が夜な夜な、墓場に出かけて死人の霊と遊んだり、地獄へも遊びに行くようになり、水木はある夜、鬼太郎から地獄の片道切符を盗み、その後を尾行したまま、行方不明になってしまう。水木は地獄の片道切符を盗んだために、地獄の住人にされてしまったのだ。

鬼太郎は、水木の母親にそのことを説明するが、信用しない。そこで、母親にも地獄の片道切符を渡し、地獄へ招待しようとするが、鬼太郎の正体が「物の怪」だと思った母親は、地獄の入り口

で、鬼太郎に後ろから抱きついて谷底に突き落とし、母親はその罪で、狂人になってしまうのだ。
鬼太郎は、祖先の霊毛で出来たちゃんちゃんこがあるので、地獄へ行ったり来たりできるが、目玉親父は、ちゃんちゃんこがなくても自由に地獄へ出入りできる。それは目玉親父が地獄への入り口を知っているからだ。
人間は知らない、この世と地獄をつなぐ入り口は四〇四ある。そのひとつが鯰地蔵の下にある。
ねずみ男が一度、この鯰地蔵の下にある地獄への秘密の通路を開けてしまったので大騒ぎになったことがある。

これが、地獄への交通手段だ

地獄への交通手段として、地獄行きの幽霊電車がある。区間は、東京の京王線で、新宿発、多摩霊園の区間である。これは、実は終電車もなくなり、人間たちが寝静まった頃、どこからともなく霊柩車が軋むような音をさせて、一台の電車が京王線の新宿に入ってくる。そして、火葬場の扉が開くような音がしてドアが開くのだ。

駅員は皆、線香を持ち、死を賛美する歌を歌うと、乗客たちも全員起立して、その歌を合唱するうちに、電車は走り出す。

新宿を出ると、停車駅は、臨終―火葬場―骨壷―多摩霊園と駅が続き、昔は、骨壷では地獄行き



「幽霊電車」

の地下鉄に乗り換えられた。又、終点の多摩霊園からは、極楽行きの電車にも乗り換えられる。

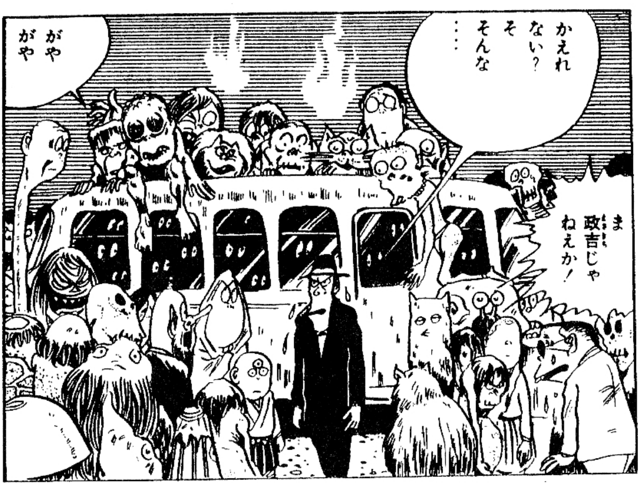
途中の名所としては、骨壷から多摩霊園までの間に、サイの河原鉄橋がある。又、車内では駅弁もある。ちなみにメニューは、「ユダヤ人の鼻の生焼けと犬の舌の刺身」「蝙蝠の毛に魔法使いのミイラ入りの蝦蟇の胃袋」で、値段は百円と安い。読者も、終電車に乗り遅れ、間違ってもこの幽霊電車に乗らないよう注意されたい。

鬼太郎の霊力「地獄流し」とは何か？

鬼太郎は、相手を生きながら地獄に落とす恐ろしい霊力を持っている。それが「地獄流し」だ。悪事を働いて警察から逃げていた殺し屋と前科十三犯のやくざも、鬼太郎にこの地獄流しにかけられた。

二人は、山奥にある鬼太郎の家を空き家だと思い、勝手に入り込み、殺し屋の方は鬼太郎の親友のカラスを殺したのだ。そのため鬼太郎は、二人を地獄行きのバスとスポーツカーに乗せて、生きたまま地獄におくったのだ。

鬼太郎の育ての親、水木も地獄の片道切符を盗んだ罪で、鬼太郎に地獄に送られたひとりだ。しかし、その後、水木の上司でもある血液銀行の禿山頭取も、この鬼太郎の地獄流しの犠牲者となっている。



「地獄流し」

「鬼太郎の誕生の秘密」で紹介した幽霊の血を提供した血液銀行は、その後、社会的信用を失い、倒産寸前に追い込まれた。禿山はその恨みを晴らそうとして、鬼太郎を警察に引き渡そうと企むが、禿山の策略を見抜いた鬼太郎は、禿山を山の中に誘い、崖から車ごと谷底に落としたのだ。

その禿山は地獄で水木と再会する。しかし、鬼太郎と目玉親父は、育ての親でもある水木には恩義を感じていたので、決して自分たちの正体を人に明かさないという条件で、水木だけを再び娑婆世界（人間世界）に戻すのだ。

鬼太郎の「地獄流し」から生還できたのは、人間界では水木、ただひとりある。しかし、水木はその後、再び鬼太郎親子の生活の面倒を見なければならなくなり、生きながら死んだような生活をおくるようになってしまったのだ。



鬼太郎と水木しげるの秘密



鬼太郎にもモデルがあったのか？

鬼太郎にはもうひとりの生みの親がいる。実は、鬼太郎にはモデルがある。鬼太郎は、元々「黄金バット」と肩を並べる紙芝居の人気シリーズだった。

昭和八年頃、「墓場奇太郎」という題で発表された紙芝居のその物語は、姑にいじめ殺された嫁が妊娠したまま土葬され、母親の死体の肉を食って墓から這い出してきた子供「奇太郎」が母親の復讐をしていく、という陰惨なものであった。

この話は、死んだ母親が墓の中で赤ん坊を生むが、乳が出ないので幽霊になって飴を買いに行く、という京都の六道の辻にある「子育て幽霊」の伝説がヒントになっているが、紙芝居の奇太郎は、長髪を振り乱した少年で、ノートルダムのせむし男のような姿で、目が異様に大きく、前歯が二本むき出し、ボロボロの和服を着ていたのだ。このグロテスクな「墓場奇太郎」の原作は、伊藤正美、絵は、辰巳恵洋であった。

水木しげるは、昭和二五年頃、この題材を紙芝居の版元の鈴木勝丸のすすめで書き始める。しかし、水木しげるの「鬼太郎」は、題名だけは似ているが、オリジナルといってもいい。兄の子供の

髪の毛の形が面白かったので、鬼太郎の頭のモデルにしたという。

水木しげるが紙芝居で発表した鬼太郎は、「蛇人」「空手鬼太郎」「ガロア」「幽霊の手」の四作品である。

又、鬼太郎の名脇役ねずみ男は、水木しげるが「少年戦記」という戦争漫画誌の編集をしていた頃の知人で、漫画も書いていた「梅田栄太郎」がモデルだという。水木しげるは、梅田のその不可解な熱意と底知れぬ金に対する執着を「これは」と思い、ねずみ男を作り上げたという。

鬼太郎にも左目があったって本当か？

水木しげるは、昭和二九年、紙芝居で「鬼太郎」を誕生させるが、その後、貸本漫画家となり、貸本漫画時代（昭和三四年〜昭和三八年）に十五本の鬼太郎の登場する作品を書いている。昭和三四年には、兎月書房の「妖奇伝」という漫画に「幽霊一家」「墓場鬼太郎」を、続いて、「墓場鬼太郎シリーズ」として「地獄の片道切符」「下宿屋」「あう時はいつも死人」を発表している。

その翌年三五年には、三洋社から「鬼太郎夜話シリーズ」として「吸血鬼と猫娘」「地獄の散歩道」「水神様が町へやってきた」「顔の中の敵」の四作品を発表し、昭和三七年には、「墓場の鬼太郎シリーズ」として、「怪奇一番勝負」「霧の中のジョニー」（兎月書房）を、翌三八年には、「おかしな奴」「ボクは新入生」「アホな男」（佐藤プロ）「ないしょの話」（東考社）と、これが貸本漫画に登場した鬼太郎のすべてである。

この時代の鬼太郎は、ちゃんちゃんこの秘密や、リモコン下駄などの超能力を使ったり、妖怪たちとの戦いもなく、左目のつぶれた人間を死の世界へ導く不吉な存在だったが、「霧の中のジョニー」との戦いの頃から、徐々に正義の味方としての自覚が生まれてくる。

ところで、貸本漫画時代の鬼太郎に左目が存在していたことが一度だけある。昭和三八年に発表された「おかしな奴」では、血液銀行の水木が、母親の死体を墓に埋めて、数日後、嵐の夜に鬼太郎は、重い墓石をどけて這い出してくる。

人間の形はしているが人間ではない。しかし、この時の鬼太郎には、しっかりと左目がある。しかし、鬼太郎が誕生してくる現場を一部始終目撃していた水木は、「この子を生かしておくと、どんな災いになるか分からない」と抱き上げて鬼太郎を放り出してしまう。その時、運悪く鬼太郎は、墓石に左目をぶつけ、片目になってしまうのだ。



「おかしな奴」

鬼太郎の推定年齢は？

今や空前の「研究本」の大流行、しかし、どの書物も研究対象としているキャラクターの年齢の探索にはかなり苦労しているようだ。作者も、まさかここまで徹底解剖されるとは思ってもみなかったからであろう。

だが、鬼太郎の年齢は、どこを切り取ってもバッチリと辻褄が合っている。さすが、水木しげるというべきであろう。

鬼太郎の年齢だが、昭和三四年に貸本漫画として発表された「下宿屋」は冒頭、理学博士の有馬凡が夜叉の墓を求めて全国をさまよう回想シーンで始まるが、物語の年月を昭和三六年と設定しているので、昭和六年、今から三〇年前と述べている。「下宿屋」は、鬼太郎が最初に妖怪と戦った作品であるが、冒頭の回想からこの話は、昭和三六年の出来事なのである。又、水木しげるは、この作品の書き直しを八年後に発表しているが、その時には、三八年前としている。

又、同じ三四年に「下宿屋」の続篇として発表した「あう時はいつも死人」で、鬼太郎の誕生の経緯に関わった血液銀行の頭取禿山は、鬼太郎の誕生のことを回想するが、それを七年前の出来事

としている。つまり、ここから考えて鬼太郎は、昭和三六年から七年前、昭和二十九年に誕生したと考えられる。

昭和二九年は、水木しげるが、紙芝居に初めて鬼太郎を発表した年でもある。鬼太郎の年齢は、水木しげるが鬼太郎を誕生させた年というわけだ。

鬼太郎が水木しげるの家に居候していたって？

鬼太郎は、水木しげるの家に居候していたことがある。「鬼太郎の放浪の秘密」の章でも、紹介したが、鬼太郎がねずみ男と、調布の「ホームラン」という喫茶店でコーヒーを飲んでいた時だ。鬼太郎の向かいのテーブルに座った水木しげるがヤクザと喧嘩になりそうになったのを止めたのがきっかけだった。

水木しげるは、霊的感度が高い人間で、鬼太郎のことを知っていて、鬼太郎をネタに漫画を書いていたらしい。空想だと思っていた鬼太郎が目の前に現れたのだから、水木しげるが興奮したのは言うまでもない。空想と現実が一致したことに感激し、鬼太郎といれば漫画のネタに困らないと考えた彼は、女房の反対に対して離婚するとまで言い張って、鬼太郎たちを物置に住まわせることになった。

しかし、彼の家を中心に、ブリガドーンの怪奇現象に包まれ、調布市は妖怪たちの住む世界になってしまう。だが、鬼太郎は怪奇現象がガモツ博士の妖気発生装置に秘密があることを知り、それを破壊し、調布市を救うと、水木しげるの元を去っていく。

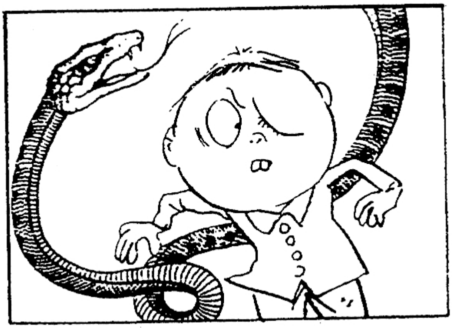
以来、鬼太郎とは二度と会うことはないと思っていたが、「鬼太郎と地獄の秘密」で紹介した地獄の帝王サタンが、地獄を占領し、ユニコンの鏡を奪った事件の時、地獄で再会した。水木しげるは、アイヌの考古学を研究しに北海道に来て、偶然、いや偶然ではない。この事件を解決しろという神の声を聞き、危険を承知で地獄にやってきたのだ。



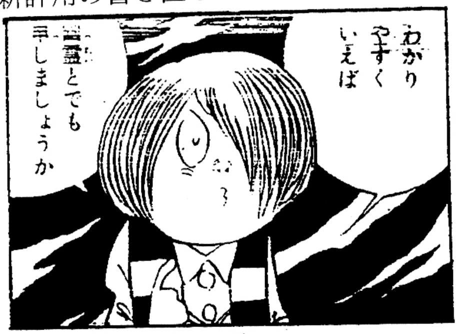
「ボクは新入生」

これが鬼太郎の顔の歴史だ

鬼太郎は誕生以来、様々に顔を変化させてきた。左目がつぶれたまま生まれてきた誕生期から、現在の鬼太郎まで、その顔はどのように変化してきたのだろうか。



●紙芝居時代版
昭和29年(1954年)頃　絵は別冊新評用の書き直し



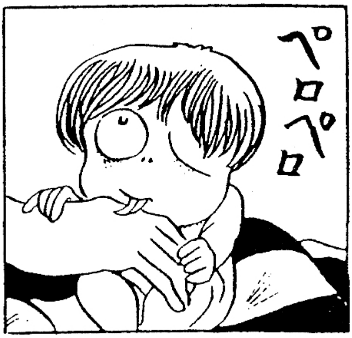
●ガロ版鬼太郎夜話
昭和42年(1967年)～昭和44年(1969年)　目がやや小さく、髪の毛が横に広がる.



●少年マガジン連載期(B)
昭和43年(1968年)～昭和45年(1970年)　目の位置がかなり上にいく、髪の線も少なくなる.

●貸本漫画時代版（A）
昭和 34 年（1959 年）～昭和 37 年（1962 年）頃　初期の漫貸本バージョン、つぶれた目が右。





●鬼太郎の赤ん坊時代
なぜか、赤ん坊の鬼太郎はどの作品もあまり変わらない。



●貸本漫画時代版（B）
昭和 37 年（1962 年）～昭和 39 年（1964 年）　後期貸本バージョン、つぶれた目が左にもどるが、つぶれた目はむき出している。



●死神大戦記版
昭和 49 年（1974 年）
目が又小さくなる。



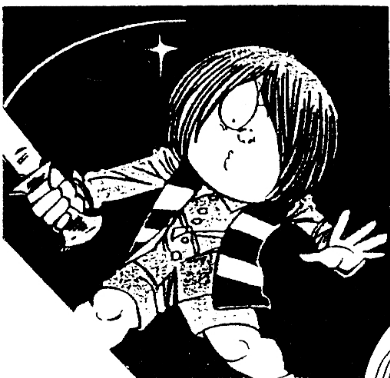
●鬼太郎のお化け旅行
昭和 51 年（1976 年）　帽子を着用した鬼太郎、鬼太郎が一つのシリーズで帽子をかぶり続けたのはこの作品だけ。



●少年マガジン新連載期
昭和61年(1986年)〜昭和62年(1987年)　目がやや丸くなる.

●少年マガジン連載期(A)
昭和40年(1965年)〜昭和42年(1967年)　タイトルが「墓場の鬼太郎」だった頃の顔。ファンに最も人気がある. たしかにととのった顔をしている.





●コミックボンボン版
昭和60年(1985年)〜昭和62年(1987年)　目も大きく、初期鬼太郎に近くなったので人気も高い



●高校生版鬼太郎
昭和52年(1977年)〜昭和53年(1978年)　高校生になると鬼太郎も 3頭身から5頭身くらいになる. チャンチャンコはセーターからふんどしになる.

あとがき

漫画「ゲゲゲの鬼太郎」シリーズは、昭和二九年に水木しげるが紙芝居で発表してから、約四〇年の間に様々な変貌をとげてきた。本書では、一般に入手可能と思われる、一般に「少年雑誌連載」と呼ばれるシリーズのコミックス版と、貸本漫画時代の復刻版を基本に構成している。少年雑誌連載というのは、昭和四一年に「少年マガジン」に始まり、昭和四四年まで四年間続いたシリーズと、昭和四五年に同誌で単発で発表された「その後のゲゲゲの鬼太郎」、翌年の昭和四六年より約一年間続いた「少年サンデー」のシリーズと昭和六〇年以後、講談社の漫画雑誌に連載されたシリーズを指す。

これらの雑誌連載の基盤となった貸本漫画と呼ばれる鬼太郎のシリーズは、後に雑誌連載で描き直され、内容が同一なので、両者をひとつの物語と考え、細部に不一致が生じる部分については、後に出てくる関連エピソードと比較して、正しいと思われる方を優先している。なお、テレビ版の「ゲゲゲの鬼太郎」は、漫画とは別作品と考え、本書の研究対象からは除外したことをつけ加えておきたい。

水木しげるファンクラブ・水木伝説とは何か?

水木しげるFC、水木伝説とは? 本書のために作り出された架空の集団ではない。活動歴七年(一九八六年発足)、五年前に水木しげる先生の承諾を頂き、公認のファンクラブとなった。現在、会員数一三〇人ほどで、今や北海道から南は九州まで、全国水木しげるファンなら誰でも知っている、とは言わないけれど知る人ぞ知る団体なのだ。

思い起こせば七年前、「水木しげる」のペンネーム発祥の地、神戸で(水木先生は、神戸で紙芝居を書きながら、アパートを経営、場所が神戸市兵庫区水木通りだったので「水木しげる」と命名)関西の水木しげるファンが数人、水木通りを歩いてみたり、宝塚のゲゲゲの鬼太郎イベントで(これも知る人ぞ知る、兵庫県宝塚市、宝塚ファミリーランドで毎年夏休み恒例行事)水木先生のサイン会に行ってみたり、神戸市の古本屋を漁ってみたり(神戸の古本屋に水木しげるものがないのは、我々のせいである)という、極く極く小さな活動だった。それが本書「鬼太郎の大秘密」の原稿依頼、狐につつまれた思いだった。と、いうのも我々は単なるファンであり、どこかの研究本のように某大学教授でもなければ、フリーライターでもない。文章を書くということからほど遠い集団な

ので、本書をまとめるのに四苦八苦したのは言うまでもない。
幸い、水木先生の漫画のシナリオを書いたことのある宮田雪さんが、我々の文章とデータを元にリライトしてくれたのが本書である。読み終えて、鬼太郎の本をもう一度、読んでみたいと思われたら幸いである。
さて、「水木しげるFC・水木伝説」の活動内容、及び入会方法を紹介しておこう。活動目的は「水木しげるファンを一人でも多く増やそう」であり、年四回の会報「フハッ」（これを知っている人はニヤリとしたであろう。水木漫画の驚きの表現である）と会誌「水木伝説」の配布で、水木作品の素晴らしさを伝えているのである。
又、会員同士の交流もあり、年に一度のキャンプでは、夜通しの水木談義をするのだ。又、恒例宝塚ファミリーランドのゲゲゲの鬼太郎の催しの見学会、水木先生のサイン会などもプログラムの中にあって、初心者からマニアまで、誰でも楽しめるサークル活動を目指している。勿論、会員は随時募集中。六二円切手同封の上（切手代値上がりの時は、定形封書一通分の切手代）
〒六五四-〇一
兵庫県神戸市須磨区北落合三丁目三八番地二一七-七〇九　馬場方　水木しげる伝説入会希望　迄

最後に、宮田雪さん、本書制作の資料調達をして下さった大分の会員NO九一、佐藤公紀さん、水木伝説スタッフの皆様、そして何よりも多くの図版の使用と文章の引用を許可していただいた水木しげる先生と水木プロ、講談社、小学館、朝日ソノラマ、青林堂並びにご協賛をいただいた中央公論社の皆様に深く感謝致します。ありがとうございました。

本書は、朝日ソノラマ刊「ゲゲゲの鬼太郎」①~⑧巻、同刊「水木しげる貸本漫画傑作選」①~④⑪巻、同刊「死神大戦記」上下巻、青林堂刊「復刻版墓場鬼太郎・妖奇伝」上下巻、講談社刊「新ゲゲゲの鬼太郎」①~④巻、同刊「新編ゲゲゲの鬼太郎」①~⑥巻、同刊「ゲゲゲの鬼太郎・鬼太郎地獄編」小学館刊「鬼太郎なんでも入門」「鬼太郎の天国・地獄入門」を参考資料にしています。

ゲゲゲの鬼太郎の大秘密

平成５年９月25日第１刷発行

著者◉水木伝説
発行者◉阿久津 忠
印刷◉壮光舎印刷㈱
発行所◉㈱松文館
〠171 東京都豊島区西池袋1-44-8 安達ビル4Ｆ
☎03-5951-4647 振替 東京6-710514

水木しげるの本　大好評発売中

ISBN4-7901-0006-5 C0036 P980E
定価980円（本体951円）



人間は必ず死ぬ
あの世とこの世はどのように
繋(つな)がっているのだろうか？
ゲゲゲの鬼太郎コミックを
通して霊々(かみがみ)の世界に迫る！